月の裏で逢いましょう

2
彗星の乾いた悲鳴

弥馬都__YAMATO

満月の日に

満月の日に

今宵は満月
何かを始めるにはピッタリだ

今宵は満月
何かを終わらすにもピッタリだ

そう
どちらでもない
どちらでもいい

離れ離れの太陽と月。

それを見守る沢山の惑星たち・・・。

始めよう

そう
一つを終わらすのではなく

同じに始めるんだ。

離れていても
お互いの叫ぶ声が聞こえる限り

２０１１/０８/１４望月夜に～弥馬都_YAMATO

あなたへのご褒美

あなたへのご褒美

よく聞いてね
ママは　あなたがいい子でいるコトだけを
望んでは　いないのよ

あなたが　やりたいように
そして自分の思う通りに過ごしていれば
満足なの

ただ
道を踏み外さないでね

ご褒美は
あなたが今　何をすべきかわかる時まで
大切にとっておくわね・・・。

そんな遠い記憶
もう
どうでもいいのかもしれないな～

俺はご褒美をもらえたのかな？

いまだにわからないや

畜生！！！
目が閉じてきちまったぜ！

ぶち抜かれた腹にも
もう痛みすら感じないんだ・・・

さよなら

さよなら

誰にいってんだろうな〜

自分の肉体にか。

最期に相応しい
紅い紅い色の液体は俺の身体を包んでく・・・

そうか・・・。

そうか・・・。

冷たい足

冷えた身体

だんだんと熱くなる

指先で・・・

口づけで・・・

貪りで・・・

慈しみで・・・

何度となく交わした時間。

その時を今
　　とめると言うんだね・・・

何も語らない唇

熱く色づく身体

少し歪んだ君の美しい顔。

そうか

そうなんだね・・・

さぁ！

旅立つといい

香りを纏い
移り香をワザと誇示する女になって

今夜
君を抱く男はどんな奴だい？

わたしね～。今日から香水はつけないわ
移り香が困るでしょ？
移り香より・・・
わたしの冷たい身体を覚えてて・・・

真っすぐな熱い瞳に負けた夜

俺は君を飲み込んだ・・・。

透明で無機質な君に
香りを纏わしたチャライ男(やつ)の顔がみたいよ・・・

もしもし・・・

もしもし・・・

もしもし・・・

仮面を落としましたよ

早く新しい仮面
被った方がいいですよ

素顔や
計算された時間(ストーリー)がバレては
面白くないですから・・・。

もしもし・・・

完璧に演じて下さいよ手品師(マジシャン)なんでしょ？
しかも芸歴も長い。

もしもし・・・

どうしましょうか
この仮面

このままここに飾ってても　いいですか？

ほほぅ
こんな形してたんですね

被ってるのさえ
わかりませんでしたよ

受けとりになんて戻ってこないで下さいね

このまま知らぬ顔で次の舞台(ステージ)演じて下さい

自分を隠すための
仮面に名前なんて書く人いないんだから

あっ！
もう新しくしたんですね

僕ですか？

ベテランの手品師に憧れて
華やかな舞台目指してる者です。

ただ・・・
僕は
京劇の役者見習いです

でもね
剥いだ仮面も上手く隠して
別の顔
すぐ作れる自信だけは持ち合わせてますよ

たぶん・・・

迷い

迷い

朝になっちまったな
しかもいつもより時間が遅い朝だ

始まりがあるから
古いものは切り捨てちまえば
いいんじゃないかい？

君は欲張りだから
両方欲しいんだね

さーて
困ったな・・・

まっ！とりあえず夏は終わりという事で
秋からまた
始めればいいさ
二人で・・・

召し上がれ

召し上がれ

召しませ
　　禁断の果実

召しませ
　　まだ青いうちに

召しませ
　　未熟な果実

まだ青い果実
　　色づく前に

捥ぎ取って
　　好みの色に育てあげ

ご自分で召し上がるもよし

差し出すのもよし・・・

召しませ
　　やがて染め上がり
　　落ちてしまう前に

あなたでない誰かが
　　だんだんと熟していく禁断の　まだ青い果実を

簡単に捥ぎ取ってゆく前に・・・。

俺、甘党だっけ？

俺、甘党だっけ？

モーニング珈琲に幸せ感じてた
昨日までの俺

今、君と交わす軽いキスが
何よりの朝の幸せ。

お気をつけあそばせ

お気をつけあそばせ

お気をつけあそばせ
お気をつけあそばせ～

今まであなたが
飼ってた猫とは違うから

お気をつけあそばせな～

今まであなたが
戯れたコトのある猫とは違うから

何をするかなんて考えてても無理ですよ

気紛れだから
勝手だから

そのくせ
とても寂しがり屋・・・。

手懐けたつもりでも
本当にそうなのかしら？

ちゃんと見てる？
わたしのコト。

ちゃんと解ってる？
わたしの本当のハート。

チャント見てなきゃ

どこかに　フラ〜　っと行っちゃうよ

そう
この鋭い爪を立てることなく

存在すらも記憶に残さず・・・。

どうしよう・・・。

どうしよう・・・。

明日わたし
あなたに逢いに行くの

明日わたし
２年ぶりに・・・。

　　ずっとずっと待ってたんだからねっ！

って

わたしのコトだから

人目も気にしないで
あなの胸にダイブしそうよ～

　　水を得た魚？

って言うのかしら～

何だか少し違うかな？

そんなコトは
どうでもいいの～

考えなきゃいけないのは

今、わたしを優しく包む
この手のコトだわ・・・。

四角い世界

四角い世界

四角く小さな世界

無機質な冷たい感触。

四角く小さな世界

その向こうに君は
　　いる・・・

僕は
こちら側で

日常という名の退屈な日々を
ただ
誰だかわからない人から受けた
命令のように毎日こなしてくだけ

君はどうだい？

今日も調子がよさそうじゃないか

並べられた文字に
甘い罠さえ感じるよ

本当かい？

起きてすぐ僕を想い浮かべたなんて・・・

本当かい？

今日も大好きだなんて・・・

四角い無機質な小さな箱の中

それでも確実に愛は深まっているんだろうか？

わからないなぁ・・・

そう呟きながら僕は四角い箱が
君のハートのようにブルブルと震えながら
僕に想いを伝えるサインを気にしてる。

君はどうだい？

今、何を考えてるんだい・・・

蝶

蝶

うす暗く彩られた　華やかな暗闇で
無数の数の蝶は　競うように羽を誇示する

蜜を吸うのか　与えるのか・・・
わからないまま美しく舞う

本当は甘い蜜だけ　貪りたいのに
油断すると抜け出せない　蜘蛛の糸にかかる。

妖しげに光を浴びて光る糸
闇の中では見えない糸。

待ち構えていた蜘蛛達は　蝶の羽をいたぶり愛でる

抜け出せない罠
計算された罠・・・

本当は　自ら望んでかかっているのに

それを隠す仮面をつけ
今夜も蝶は舞い　踊るように飛ぶ

素顔を隠して心を殺して・・・

やがて疲れて蟻地獄。

羽を失った蝶　可愛そうな蝶

また違う仮面をかぶり

別の闇へと消えてゆくのか・・・

おしゃべりな唇

おしゃべりな唇

わたしって
こんなに　おしゃべりだったかしら～

まるで機関銃みたいに
次から次へと唇からこぼれ落ちる言葉

キットあなたの せいね

あなたは話しを聞くのが上手くて
だからわたし
聞かれもしてないのに次々と
いろんな事を話してしまうの

わたしって
こんなに　おしゃべりだったかしら～

まるで波のように
寄せては還す(かえす)あなたへの熱い想い

キットあなたが素敵過ぎるせいね

あなたは他の話しを聞きだすのは上手いのに

今日も　あなたは
聞こえないふり・・・。

モノクロームの夢

モノクロームの夢

モノクロームの夢の中

あなたと出逢って
今晩は。

モノクロームの夢の中

それはあなたが毎晩みる夢

モノクロームの夢の中

今夜も私
おじゃまするはね。

モノクロームの夢の中

沢山の花を抱えて
行くからまっててて〜

一緒に今夜も花束つくろ！

あなたの夢が彩りに包まれるまで〜

二人詩（ふたりうた）～綺麗（色彩）影踏み＆弥馬都__YAMATO

何かが変わる瞬間が　きっとある。
季節の変わる瞬間や。
誰かが突然、綺麗や素敵になったり・・・
食べれないものが　美味しく思える瞬間。
望んでいたり、そうでなくとも・・・
運命の変化ずっと思い続けるよりも、
きっとそれは突然訪れる。
あなたの元へ。～変化。

綺麗（色彩）影踏み

何もかわらない今がある。
時計の針は動いているのに。
自分は全く進歩もなく・・・
いつもと同じ食べ物が　お決まりの味に感じる毎日。
望んでも、望まなくとも・・・
時間の変化　確実に進んでるのに、
きっとそれは　ふいに訪れる。
あなたとの出逢いによって。～退屈～変化へ。

弥馬都__YAMATO

下弦の月の夜の
偶然の素晴らしき出逢いに感謝
２０１１/０８/２２

で？

で？

あなたの言葉は魔法のようね
私を素直にさせてくれる

あの人の言葉は呪文のようね
私を闇に誘う(いざなう)の

どちらも必要
どちらも　いらない・・・。

答えはたぶん　もうでてるのに・・・。

で、
君に必要なのは
もちろん俺の方だよなぁ？

いつもみたいに何か言えよ

なぁ・・・

急に黙るなよ・・・

二人詩(ふたりうた)～綺麗（色彩）影踏み＆弥馬都__YAMATO

一行で一番深い言葉・・・愛

～言葉

綺麗(色彩)影踏み

@iikotoaruyounii

一行で一番罪深い言葉・・・愛

～想い

弥馬都__YAMATO

@tukinoMIKOTO

２０１１/０８/２３　Twitterより

ルール

ルール

先にルール破ったのは
だ〜れ？

あなただったっけ
わたしだったっけ？

ルール破ったら
償わなきゃいけないんだよ

誰にだっけ？
わたしにじゃないよ
お家にいる人にだよ

花とケーキ持ってって
優しい言葉の一つや二つ
ちゃんとかけなきゃいけないんだよ

あぁ〜
わたしにそんなコト言われなくたって
あんたはちゃんとできるよね。

選んであげるね
その花とケーキ。

花は薔薇かなぁ〜
もちろんトゲは抜いたやつ

ケーキはザッハトルテがいいや
洋酒がきいたビターなチョコケーキ

どんな顔して渡すのかな～

なんてチョット意地悪いってみた

バイバイ
また来週

さて
わたしも買い物して帰らなきゃ
夕食の材料二人分。

ルール破ってんのは
わたしも同じなのに・・・

あなたは　それを知らない。

二人詩(ふたりうた)～綺麗（色彩）影踏み＆弥馬都__YAMATO

告白と善人は、
いまだに忘れられない・・・

綺麗(色彩)影踏み
@iikotoaruyounii

あなたと裏切りは、
いまだに忘れられない・・・
そう、裏切ったのは
わたしだから・・・

弥馬都__YAMATO
@tsukinoMIKOTO

２０１１/０８/２４ Twitterより

エンドレスな甘い時間

エンドエスな甘い時間

おねぼうさんな　あなた

遅めのブランチは
パスタに決まり！

玉ねぎを刻みながら
１週間の寂しかったコトを涙して

ひき肉を炒めながら
あなたに纏わりつく　可愛こちゃんをバラバラに解して

真っ赤に熟れた
私のハートのようなトマト味を最大に生かして

あなたの好きなミートソース作った。

パスタはカッペリーニがいいは～
確か天使の髪の毛って意味だったかしら？

細く長いパスタがミートソースで染まったら
それは
あなたと私繋ぐ赤い糸なんのかもしれないは～

な～んて
ジョーク言い合って
笑い合った。

ご馳走さま～♪

の声は
デザートの始まりの合図ね・・・

もちろんデザートは　あなたとの甘い甘いKISS

いただきま～す♪

が再び始まる
休日の甘美な時間・・・

方程式

方程式

数学が得意だった学生時代

なのに今は
簡単なコトが　わからなくなるのは
どうしてだろうなぁ・・・

君の中の決して解けない方程式

答えを教えてくれよ
僕だけに　そっと・・・。

始めよう

始めよう

そうだね

せっかく生かされているんだから・・・。

彼は
　　生まれてきた
とは言わなかった・・・

始めよう。

二人で今日、この瞬間から

ねえ・・・

ねえ・・・

あのね、
もうすぐ私の半分
なくなっちゃうんだよ。

秘密にしてたけど、
言えなかったけど・・・

でもそんなに変わんないかも
もともと小さいから
Bカップだもん！
今は小胸ブームだから、もて胸かなぁ～

あのね、
二つセットが当たり前だった胸・・・
一つになっちゃったら、心も半分になっちゃうのかなぁ～

ならいいなぁ～
悲しさも半分になるね！
あっ！あなたを想う熱い気持ちは　どうなのかなぁ～
うそうそ。変わんないって！私の方はね！

ねぇ・・・
綺麗な間に
心ごと抱いて・・・。

蟹座に恋して

蟹座に恋して

蟹座のあなたに恋した日から
わたしのハートはジグザグジグザグ

横歩きしかできないようで
慌てて走るとジグザグしちゃう

早く早くハートが届きますように
あっ！もう届いてる？
リア好きだってばれちゃうと
何か関係崩れそう

ジグザグジグザグ
うまく進めない！

まっ！いいかぁ～
普段から器用じゃないし

このままジグザグ
今日もジグザグ

いつか真っすぐ歩けるように
今日もわたしはジグザグジグザグ

ねぇ！
あなたは上手く進めてる？

ジグザグしてるわたしに構ってばっかだと
歩かなきゃいけない道からジグザグそれちゃうよ

ちゃんと自分で進んでね〜

大人しくジット待ってるから
(本当かなぁ〜)

そして
疲れたら飛んできて抱きしめて

牡羊座のわたしは
フワフワしてて温かくて柔らかいよ
きっと〜

夏の終わりに

夏の終わりに

へぇ～！
明日から学校は新学期が始まるんだな
また俺達も新しい何かを
一緒に探しにいこうな！

えぇ・・・
もう明日から九月ですものね
夏休みも終わるようだし私は
元いた場所に帰るは～
あっ！
別に卒業したってワケじゃないから
また夏になると
　　フラ～
っと還ってくるかもね。
だってあなたの指先は　とても冷たくて心地いいもの
大丈夫よ！
目覚まし時計はチャント合わせておくから
安心してお眠りなさいな～
おやすみなさい・・・。

勝手で一つの二人

勝手で一つの二人

浮気な神にご機嫌/(ななめ)の女神

女神もまた
神とは違う何かを求め輝いていく。

お互い
美味しいものは最後にとっておくタイプだから〜

寝乱れ・・・。

寝乱れ・・・。

今頃
あなたの指先は
弦と戯れているの？

爪の形
指の長さ
なにもかもがドキドキさせる

そうね
声
一番感じるのは声・・・

あなたの優しく穏やかな囁き

あなを独り(ひとり)想う夜。

あなただけに包まれたい夜。

私の指先はあなたと同じ動きで

深い深い闇から紅い世界へと
私を誘い込み
そしてやがて私は果てる・・・

欲深き生き物

欲深き生き物

明日、世界が終るというのに
右の足の痛みを気にしてるなんて
可笑しなコトを言うね。君は・・・

キットそれは
君が少しでも前に進みたいからだよ

たとえこの瞬間
世界が終ろうとも

君は少しでも前を向いていたいんだね

あぁ・・・
人間とは何と欲深く素晴らしい生き物なんだろうな

雨の日曜

雨の日曜

日曜日に
わたしは決まって子犬を拾う

何かに怯えた眼(め)
物欲しげな唇
綺麗な横顔・・・
そして
雨に打たれ冷えた身体

今日はあの人の好きな雨が振った日曜日

子犬の冷えた身体が
わたしの肌とピッタリ合わさり
急速に熱く色づく・・・

耳元で囁く声
わたしは耳をふさぐ・・・

声は出さない約束よ。

約束を破る悪戯な子犬には
おあずけが必要なのに
わかっていてワザと囁くのね。

わたしを見上げる
甘く悲しく　切ない顔

あぁ・・・

このまま飼ってしまいそう

犬は甘えるのが上手いって本当ね・・・

どちらともなく求めあい
やがて二人は雨音に包まれながら溶けてゆく
このまま流されれば幸せなのかしら？

昼間みた激しい波に似た世界へ身体は旅立つけど
冷静な心が
つまらない事を考える。

あの人は今頃
飼い猫を愛でているのかしら・・・。

ある日の呟き

ある日の呟き

「ありがとう。
私を見つけてくれて」

今更なにを言うんだい？

生まれる前に
君だって宇宙に存在していたじゃないか

その時から僕らは一緒だった

そう

ずっとずっと遠い昔から

君は忘れてしまったのかい？

僕らは昔
一つだったってコトを～

寂しがりやの君

寂しがりやの君

なぁ
危なっかしくて見てられないんだ

いい加減、気づけよ
君って娘は全く・・・

そろそろ落ち着いたらどうなんだい

もう十七、八の学生じゃないんだから
少しは
考えて行動しろよ

困るじゃないか
仕事中でも　真夜中でも

何かあったら
スグ泣きついて電話かけてきたり・・・。

こっちはオチオチ仕事にも手がつけれないじゃないか！

しかも毎晩だぜ
おやすみが聞けないと眠れない？

もう笑っちゃうよ

てか！
呆れてモノも言えないよ。

そんな台詞は君の恋人に言えばいいじゃないか！
こっちは今、手がはなせないんだよ・・・。

そして君って人は
言いいたいコトだけ言ったら
ケロッ　として

また蝶のようにフラフラとどこかに飛んでっては
泣きながら帰ってくるんだから

少しはこっちの都合も考えてもらいたいよ！
全く・・・。

えっ？何？？？
聞こえない！音楽がうるさ過ぎて

ボリューム下げろよ

えっ？すき？

あぁ・・・
その曲、俺も好きだよ

えっ？曲じゃないって？
なら、何なんだよ？

・・・・・。

なぁ・・・
これ以上、困らすなよ・・・

なぜ？

なぜ？

心はウソつかないのに
言葉は嘘つきね・・・

強がって
遠ざけて
そして独り(ひとり)

１人と１人が合わさっても
やっぱり独り・・・。

なぜ？
なぜなの？

教えてよ言葉の意味
伝えてよチャント

退屈な毎日

退屈な毎日

捕えられたコオロギ
軽く握った手の平の中

さぁ
どおうしましょうか？

このまま捕えて虫籠に・・・。
お前はチャントコロコロと
美しい音色で歌うのかい？

歌わぬならば捨てますよ。
いらないのです。

鳴かぬコオロギなど
ただ黒く餌をむさぼり厄介なだけ

美しく舞い踊る蝶なら連れて帰るけど

鳴かぬなら・・・
わたしは　あなたなどいらないのです。

手の中でもがいてみなさいよ
その太い後ろ足で大地を蹴って高く高く飛べるのに
飛んでみなさいよ。

ほら！
ちゃんと隙間は開けていてよ

今は軽く握ってるから

息がチャントできるように・・・。
いつでも手の中から抜け出せるように

もがくのも忘れたなら・・・

軽くこの手を閉じて
じわじわと押しつぶしてしまおうかしら

鳴くか飛び出すか
今、決めて。

癒しの月

癒しの月

身体の真ん中で

ピキピキという音が鳴り響く

ピキピキ
ピキピキ・・・

季節外れの向日葵一輪
秋の風を受けながら
月へと向かい笑ってる。

ピキピキピキピキ
鼓動より速く、
速度を増して壊れゆく身体の真ん中

ピキピキ
ヒビの音。

散り際にもがき苦しみ
垂れ下り
朽ち果てた花びら

　　誰かこの痛みを止めておくれ

　　誰かこの苦痛から解き放っておくれ・・・

言葉をもたない華一輪

土壌に落ちた花びらはやがて風へと運ばれて

月に還ってゆくのでしょうか・・・

幸せのためにある時間

幸せのためにある時間

独りじゃない時間を一杯楽しんだ君は

今、
孤独という途轍(とてつ)もない悲しみと
どうしようもない不安に怯えているんだね

それは今までずっと独りきりじゃなかった印なんだ
次にやってくる幸せを待つための時間さ。

幸せのためにある休息時間だから
今はゆっくり自分時間を楽しめばいいさ

案外それもいいもんだよ

ずっとずっと長い時間
僕がそうしてきたように

君の孤独は僕の幸せのチャンスかもしれない

僕が君を待ち続けた長い長い孤独という名の時間は

もうすぐ埋まりそうだ

いいかげん君も気づけよ僕に・・・。

神聖なるあなたへ～

神聖なるあなたへ～

わたしが欲しいのは

あなたの中に湧き上がる詞(ことば)の泉

あなたの心
あなたの姿は誰も汚すことのできない神たるもの

どうかあなたの女神が現れ
あなたの隙間、埋め尽くすまで

多くの民に光と希望を～

出逢え
一時でも魅入られたコトへの限りない幸せを糧に
わたしは先に向かいます。

閉じた瞳(め)

閉じた瞳(め)

ここをこうすると
感じるんだったよな
次は
ここをこうだ
そして・・・

なぁ
声だせよ

まぜ押し殺すのさ
俺をちゃんと見ろよ

瞳(め)閉じて
何時も通りの指先感じて

お前はいったい
誰に抱かれてるんだよ

お前が導いた指先
お前が決めた台詞(ささやき)

声と指
誰かに似てるのか・・・

一度くらい
俺に抱かれてみろよ

なぁ・・・。

旅立ち

旅立ち

肌を透けてみえる
青く細い管は
本当に
心臓へと繋がっているのかしら？

刃(やいば)でなぞると

ひやっ！
とした感覚が
まだ温かな私の身体を走る・・・

肌の白は
何も知らなかった頃の私

細く長い心臓へと続く管の色は
あなたの一番好きだった青色

流れ始めた生ぬるい液体は
新しい旅立ちを祝福するかのような紅色(くれないいろ)

三色が混ざり合うと
とても綺麗だわ・・・

「海の歌」～鳥野　隆史＆「空の歌」弥馬都__YAMATO

海の歌

満月の夜　魚ははねる
珊瑚はゆれる
はるかな昔からの　海の歌
寄せては返す　海の歌
命の中の　海の歌

鳥野　隆史

空の歌

満月の夜　月は笑う
海は光る
星はまたたき　空の歌
穏やかに光る　空の歌
永遠の中の　空の歌

弥馬都__YAMATO

夜のカナリア

夜のカナリア

歌うだけのカナリアと
蝶の違いはおわかりでしょうに

美しく着飾って
叫びにも似た歌声が
心の隙間に響いても

決して触れてはなりませぬ

しょせん私は歌うトリ

舞遊ぶ
蝶との違いはおわかりでしょう？

歌うだけのカナリアは
ただ愛でるだけの存在なのです

美酒に酔い蝶に惑い
ふと耳にした歌声に
あなたの心が揺れたとしても
一時(ひととき)の安らぎと理解下さいませ

月光に守らるよう照らされて
週末だけ歌いさえずるカナリアを

どうかお願い
月の元へと還らせて・・・。

鱗（うろこ）

鱗

剥がれ落ちた鱗
水の中でキラキラと光る

月明りのとどかない夜に
妖しく光る

剥がれ落ちた鱗
水の中でキラキラと舞う

月明りのない闇夜に
悲しく舞う

剥がれ落ちた鱗

それは私の鎧。

壊れるのは君だろ・・・

壊れるのは君だろ・・・

触れてみろよ
いつだって手を伸ばせば届くのに
何、躊躇ってるんだ

ほら
俺はここにちゃんといるだろ
いつだって

もう限界なんだろ？
見てりゃわかるよ
わかりやすくて馬鹿らしくなるさ

触れてみろよ
温かいぜ意外と俺。

あぁ！
よく言ってたよな・・・
「冷たい人ね・・・」
って

君がいけないんだよ
いつも冗談まじりで好きだの何だのって・・・

なぁ～
素直になれよ

触れたいんだろ？
俺にさ！

体温感じて抗ってみれば
考えるより楽だぜ

そのまでいると
壊れるのは君だろ？

・・・・・。

いや・・・
風向きが変わってきたな
秋の風は予測がつかないな・・・

二人詩(ふたりうた)～鳥野　隆史＆弥馬都__ＹＡＭＡＴＯ

どんな嘘をついても　通じない人がいる
どんな隠し事でも　お見通しの人がいる
それは自分
誰かをだませても　自分はだませないから
自分を裁くのは自分です

鳥野　隆史

切ない嘘

いけないと知りながら　つい嘘つきになる瞬間がある
どんなに上手くついた嘘でも　お見通しなのはわかっていて
それはあなたのせいかも知れない
想いが深くなり過ぎて　ついつまらない嘘をつく
裁くなら　この嘘つきな唇を甘いkissで塞いで

弥馬都__ＹＡＭＡＴＯ

人形

人形

髪を伸ばして
爪もピンクに染め上げて
口紅の色も桜色

洋服も
あなたの好みのデザインでしょ？

話す口調
言葉尻　少しあげて話すんだったよね。

ほら！
綺麗でしょ？

全てあなたの色で染まってるもの

でも
あなた・・・

わたしの心
覗いたコトある？

狐

狐

人身御供の橋の上
通りの途中にお出逢いし
狐の顔した貴方様
わたしの心もお見通し
嘘はつけぬと観念し
一緒に笑いあいました

水玉模様の手ぬぐいで
ピン！と尖った耳隠し
粋な着物で通りゃんせ

夕刻まじかなこの時間
たまに逢います貴方様。

神の遣いか
悪なのか？

訳も解らず微笑んで
橋の真ん中すれ違う
月のない夜の出来事でした。

瞳(め)を閉じるわたし

瞳(め)を閉じるわたし

月を見ていたの
穏やかで妖しい月光を浴びてたら
深く沈めた想い　溢れそうで怖い

どうしてそんなに強く微笑んでられるの？

そんなあなたに
ふいに抱きしめられて立ちすくんだ

わたしの中の真実
まだ見せたくないの・・・

溢れだす想い隠すため
きつく閉じた瞳(め)　開くコト恐れ
今宵もわたしは月明りの下
そっと再び瞳(め)を閉じて
あなたの胸へと抱(いだ)かれる

カイとゲルダ～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

カイとゲルダは仲良しでした
ある日カイの瞳に　鏡の破片が突き刺さる
やさしいカイは冷たいカイに
そして
カイを雪の女王が連れ去った
カイを取り戻すためゲルダは雪の国を目指して旅に出る

ゲルダの足を前に進ませるのは
カイに会いたいという気持ちでした

鳥野　隆史

ところがカイは記憶をなくし
ゲルダのコトなど忘れてしまい
真実が見えない瞳と手探りで
自分の居場所をみつけます
ゲルダが自分の大切な
人だというコトすら気づかずに・・・。

その頃ゲルダは足かせに似た
苦しい旅のど真ん中
さてさてゲルダはどうなる事やら？

ハッピーエンドをお望みの
今、ここを覗いておいでのお客様

あなたのハートの趣くままに
この話しの結末を
今宵わたしの寝物語りと耳元で
そっと語っていただけますか？

残酷な甘い夜に～

弥馬都__YAMATO

あなたの歌声

ねぇ。知ってる？
あなたの歌声はまるで優しくそよぐ風のように
だれの心の中にだって響くのよ

穏やかな優しいあなたのその声が
みんなを幸せへと導くの

何も迷うことなく想いのまま
囁くよう語るように
おもむくままに唱(うた)えばいいのよ
何を迷っているのかしら？

感じたまま唱(とな)えるように
語るように・・・
そう優しく愛を囁くように

あなたを愛してくれる人達
あなたが愛する人達に
あなたの優しい気持ちが届くよう

囁くように踊るように
たくさんの縺れた糸を解きほぐすように

あなたの歌声を響かせて
みんなが穏やかに頬笑み逢えるように

そして
わたしがもっと強くなれるよに
どんな時でも笑っていられるように
優しい声で囁くように今宵も・・・

みえない真実

みえない真実

何時だって真実なんて伝わりゃしないのさ！
本心なんて皆、深くに沈めてるんだ

自分を守る為の馬鹿げた時間
そんなものは　いらないんだ

なぁ
君にしかみえないだろう？
僕の真実
なら
黙ってないで何か言えよ！

黙(もく)するなら君さえもいらない。
このまま海へと僕は一人還るだけさ・・・。

走る猫

走る猫

もしあなたが年老いて
傍に寄り添う人がいなければ
私は猫に姿を変えて
冷たい寝床に潜り込んでもいいですか？

何もかも捨て　あなたの元に
全速力で駆けつけて
弾む息のまま
一直線にあなたへ向かう

受け止めてくれますか？
もう誰にも遠慮はいらないのです

離れてた少し人より長い歳月(じかん)
そんなものは　すぐに埋まるから

出逢った頃の少女のように
少し頬を赤らめて
あなたの胸に飛び込む　わたしを
あなたは優しく包み込んで下さいますか？

後
何年待てばいいのでしょうか・・・
その時がユックリユックリ訪れる瞬間まで
あなたは今のまま穏やかでいてくれますか？

私はキット少しだけ
作り笑いを覚えてしまっているでしょう

走って走って走って
息を弾ませ駆けていくから

抱きしめて
優しく膝の上に座らせて。

もう二度と他の人の飼い猫にしないように

俺、いい男だからさ・・・

俺、いい男だからさ・・・

少しずつのさよならなんて
俺には似合わない
決めたが最後さ！
ベイビー
泣いたってダメさ

もう決めたのさ
　　突然・・・
なんて言うなよ

そんな顔すんなって
いいじゃないか潔くてさ

女々しい男じゃなかったって事さ
お前が惚れた男は

結構いいヤツだったろ俺？
お前を出逢った頃以上の女に仕立てたんだから

お前を見りゃ誰でもそう言うだろ
　　いい女だ！
って

今年の夏もそうだったな・・・
海だよ！海
　　やめとけよ・・・
て言うのに、お前さー
子供みたいに波と戯れて笑ってたな。

そんなお前見て思ったんだ
　　ココじゃないだろ。
て・・・

もっとさ。そう広い世界に出な！
俺といるとダメになっちまうからさ。

今日でさよならだ！

泣き顔なんて見せるなよ。
いつものように笑えよ・・・

　　さよなら。

さて
あいつには、どんな言い訳にしょうか・・・。

どこかしら？

どこかしら？

大変なの！
夕べから　見つからないの
いつも大切に眠るときも
　　ギュ～！
って抱きしめるから
お布団の中も探したし
お気にいのBAGの中も覗いたの
もちろん
クローゼットの中もよ。

どこかしら？
いったいどこにいったのかしら？

ずっとずっとそばに置いておいたのに・・・。
勝手にいなくならないように
たまに鍵かけたり、リボンで飾ってみたりして
大切に大切にしてたのに

そうなの
最初は正確に動いてたから、別に気にも止めなくて
色だって他のみんなと同じだから、どうでもよかったの

ある日ね
動きが早くなってるコトに気がついた。
　　そんなに早く動いてちゃ爆発するよ！
って何度も何度も言い聞かせて
やっと動きが静かになってたのに。

その時ね
色までは元の色に戻らないから

あれっ？？？
て思ってた。

だから勝手にいなくならないように
毎晩ちゃんと抱っこしてたの
なんだか勝手に　おしゃべりしちゃいそうだし・・・
困るわ・・・

でも朝起きたら見つからないの
大変だわ！

ねぇ～
わたしのピンクに色づいたハート
あなたの傍(ところ)にいってない？

二人詩(ふたりうた)～璃空ーりくー＆弥馬都__YAMATO

君からのKiss

優しい気持ちになれた

少しだけ・・・傍に居て・・・

抱き締めさせて・・・

目を閉じて

優しく囁く君の唇

伝えたい・・・

この想いも

忘れかけていた素直な気持ち・・・

傷つけるのが怖くて

伝えられない想いも

きっと今なら言えるのかな・・・

璃空-りく-

あなたとの口づけ

私の胸をえぐるよう

もう・・・行かなくちゃ・・・

わかっているくせに・・・

もがくように呼吸する

あなたの温もり感じながら

喜びに震えながら・・・

捨て去った想い

呼び起こすのは罪・・・

恐いのよ　わたし

遅すぎたんだは・・・

ふさがれた唇が　さよならを躊躇わす・・・

弥馬都__YAMATO

僕の海

僕の海

海。
それは果てしなく続く青い世界

そこには
たくさんの魚達やミズドリが住んでいて
太陽の光が差し込む美しい世界

白い羽の天使のように
ミズドリは舞い踊り

魚達は群れをなし
今日も何処かへ旅に出る

還らぬもの
逸(はぐ)れるもの
一緒に旅するもの・・・

過酷で美しい世界

潮風が吹き
波が誘(いざな)い
遥か彼方の島からは流木が流れつき
波間に漂い揺れている

空から落ちてきた星はヒトデ

その星達が光り
海は果てしなく輝き続ける

そう
いつまでも・・・。

存在価値

存在価値

綺麗な　べべ着て透明の箱に閉じ込められし私。
足も口もちゃんとあるのに

黙していれば幸せと
来る日も来る日も教えられ
私は閉ざした心と共に
呼吸する抜け殻を手にいれました。

ありがとう
何も考えない世界への導き。

ありがとう
私を否定してくれて。

ありがとう
存在価値を
あなたなりに見つけたのですね・・・

もう呼吸することすら苦しい
微動だにも動かぬ私の肉体に
最期の灯が灯る今。

どうかいらないなら海に流して下さい
私が生まれ
そして、還るべき海へ・・・。

流されても
私は必ず目指す場所に辿りつくから

待っている人も不確かだと言うのに
滑稽ですね・・・

その結末を覗かれた感想を

手に入れた幸福感に酔いしれ踊る
単純な私へと贈って下さいませ。

私は誰が何と言おうと
私なのです。

それを認める生命体は
危うく消えそうな
あなたでしかないのですから・・・。

でも好き

どうしてかな？
わかんないやぁ～

でも好き。
見つけたから？
見つけてくれたから？
めぐり会えたから？
何時からだろ？
どこがかな？

顔だって好みと違う
おっと！失礼
でも大好きなの（＾◇＾）

今日は好き。
大好き。
今、この瞬間あなたが好き。
明日なんて知らないけど
わたしは今、あなたが一番好き！

青い雨

夕刻の雨
青い影

昼間とは違った景色
闇へと誘(さそ)う

水溜りにいる魔物
地面の中に溶け込んで
地球の裏へと逃げたとさ

濡れた肩
抱き寄せる指先

放り投げた傘
坂道を転げ落ち消えた

肩の感触
あなたの指

こんな日は想いだす・・・

やってみなさいよ！

奪い合い勝ち取った愛に
なんの魅力も感じなくなったの

そう・・・
冷めたのよ

酷い女だっていうの？私が？

そうかしら？
正直(ストレート)でいいじゃない。
むしろ感謝されたいくらいよ

偽りの愛が欲しけりゃ抱けばいいわ
そこには何も生まれないけど

子供の頃からの癖かしら？
欲しいものは何時だってキラキラ輝いてた！
だから自分のモノにしたくなるのよ

輝きをなくしたら　むしろ厄介なだけ

夢、追いなさいよ

何やってんだか・・・
呆れてものも言えないじゃない

メンツ、プライド、安定感
そんなもの望んでないし、いらないのよ私。
あなたも只の男だったってコトね

馬鹿なのは私の方だわ
そんなコト考えもしなかったもの

いらないわ、いらないのよ

夢をみなくなった　あなたなんて・・・

すれ違う雨

降り続く雨・・・

都会の隅の雑草は憂いを増し
本来の輝きを取り戻す

野良猫は濡れるのを嫌い
悲しげに
　　にゃ～！
と泣く。

子犬は賢いから
安らぎ求め今夜の宿は決めている。

パラパラと鳴る傘の音。
水溜りに打ちつけられ跳ねる雨。

見覚えのあるレインコート。
傘に覆われ見えない顔。

繋いでた手を理由づけ離す私。
橋の真ん中すれ違う・・・

落とした視線の先の川
水かさが増え今にも溢れそう

それは繋いだ手と違う
あなたへの私の想い。

現在(いま)

一瞬だけの永遠を手に入れたから

もう
わたしは迷わない。

いかれたハート

俺のビートに感じてるのか？
変わってるよなぁ
うん
変わってるな。お前。

ボーカルの　あいつの方がカッコイイだろ？
んっ？

下手(しもて)ギターをさ！
下手(へた)ギターとか
訳わかんないコト言って絡んできたり

いきなり髪色まで変えちまったり
面白いな相変わらず

　　ほら！だから売れないのよ！
はいはい。ど素人のおまえに言われたくないんだよ
まったく・・・。

結構人気あんだぜ俺。
ベースはさ、地味なんだよ
だから俺よか化粧も下手な　お前がよかったんだよ

変わっちまうなよ。
俺は変わんないって約束したろ？
え？
忘れちゃったって・・・
お前さぁ～ウソつくの下手だよな。

変わったのは俺じゃないだろ？
違うか？

一瞬
お前だと気がつかなかった・・・

たった数カ月じゃないか
離れてたの

いっそのこと、このまま壊しちまおうか
お前のいかれたハートに媚薬たらしてさ！

ん？泣いてんのかお前
道の真ん中でさ！
しかもさ、
俺まだメイクしたままだから目立つぜ・・・。

わたしの世界

あたたかな
あなたの腕をすりぬけたら
そこには違う世界があった

あなたの胸に顔をうずめたままなら
私は
ただの女に成り下がってしまう

あなたの元を離れた私は
人魚のように波間を漂い
やがて波と戯れ輝きを増すだろう

そして
本当の自分自信を探し求める

何時か大きな海原のような世界で・・・。

テイスティング

なぁ
何でだろうな

KISSはレモンの味だとか

ザクロは人間の味？

まったくさぁ～
KISSがレモンの味なわけないし

人間食べたことあるんですかぁ～？
って、笑えるよな！

お前がさ、
どんな味かなんて俺興味ない。

その代りにさ！
俺を味わってみないか？

ゆがんだ唇

負けるのが嫌だから
何度も何度も繰り返し
唇を噛みしめた

その唇はやがて
美しき紅色へと染め上がる

恋をしましょう
恋せよ乙女

何処からともなく聴こえる歌声

恋をしましょう
そして、ふたりの夢を叶えましょう

何処からともなく差しのべられた手

その指先がふれた瞬間
肉体は瞬間に砕け散ったのに
唇に残る紅の味。

鉄の匂いと紅の味
砕けた身体の肉片と混ざり
匂い立つ。

あぁ・・・
これが忘れていた匂い
味わったことなき味。

遠のいてゆく記憶の中に
かすかに微笑む
あなたの唇が妖しくゆがんだのが
月明りの中に見えた・・・。

二人詩（ふたりうた）～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

世界が終わる日の夢をみた
僕は君のとなりにいたいと思った
君は僕のとなりに座って
「信じる気持ちを忘れなければ世界は続くわ」と言った

世界は終わらなかった

夜明けの光に包まれて僕は目覚めた

鳥野　隆史

まだ見果てぬ未来の夢をみた
私は　あなたの傍にいたいのかもしれないと思った
私は　あなたの隣によりそい
その問いかけに
「信じる気持ちを忘れなければ世界は続くわ。どこまでも・・・」
と、囁いていた

その瞬間
確かな未来へ進む路(みち)が開けた

穏やかな月明りは
何時しか明るい太陽の光にとって変わり
私は長く短い眠りから目覚め
気がつけば未来への扉をノックしていた

弥馬都__YAMATO

雨に壊れる

月明りを探して街に出かけたの
街頭が少し明るすぎて
月の輝きが届きにくかったわ

ネオン輝くこの場所に来たの
でも、ネオンの光が強すぎて
月の姿はおぼろげだったわ

突然、
激しい雨が私を襲った
佇(たたず)むしか出来ないわたし・・・
気がつけば雨にさらされ
雨と戯れ雨に抱かれていた

空洞の隙間に流れ込み
わたしを満たしてゆく冷たい雨、激しい雨、残酷な雨

空を見上げたのに、月を探したのに
黒い雲に覆われた激しい雨の夜の中
月の光はそこには無かった。

ずっと遠い日から
わたし月を探してたのに
いつも誰かが邪魔をしたの
星達さえも・・・

あの日雨さえ降らなければ
あの日傘さえ持っていたのなら・・・

そんな風に考えるのは　もうよそう

激しい雨もいつか止む
そう情熱となんら変わりないのよ

熱い想いも何時か冷めるということを
雨に打たれ初めて気づいたの

ただ、わたしは

月と睦(むつ)み

月に浄化されたかっただけなのに・・・。

夢の果て～(弥馬都__YAMATO編)

諦めて置き去りにした夢はね
いつまでも　さ迷い続けて泣くんだよ
いつか迎えに来てくれるのかな？
もう、こないのかな？
忘れたの？
いつか僕を思い出すときがくるの？
って、
いつまでも泣き続けるんだ

迎えになんて、行くわけないじゃん
どんな思いで置いてきたのか分ってんの？

簡単に置いてきたわけじゃないんだよ
ずっと大切に大切にして
共に泣いたり笑ったりしてきたんだよ

簡単に迎えに行くのなら　置き去りになんかしないよ

もう、君は捨てられたんだ。
もう、いらないやーってね！
泣いたって叫んだって、もう遅いんだよ

忘れられないけど・・・
忘れることにしたんだよ
だから
そこで眠っててておくれよ

もう僕を呼ばないで
もう違う道を歩こうと決めたんだ

だから連れていけないいんだ・・・
いつまでも君と関わってたら僕は、僕は・・・

なあ、おとなしくしといておくれよ

君を、綺麗な宝石箱の中に入れて鍵をかけるよ
その鍵は、誰にも見つからない秘密の場所にそっと埋めておこう

そうして僕は、何をしていていても
誰にだって平等に訪れる時の中に　紛れて生きていくんだ
やがてその鍵のありかさえ忘れて・・・。

大したことじゃないの

グラスの中の氷が
　　カラン・・・
と、小さな音を立てた

何かが私の中で
少し崩れてきたような気がする・・・

好きな人が他にできたわけでもなく
大きな出来事があったわけでもないに
あなたへの愛が冷めた音。

　　カラン・・・
と、もう一度確かに聞こえたような気がするわ

疑惑でも
さほど大きな出来事でもない
些細な出来事が

私の熱く静かに燃えていた心を
凍りつかせたの・・・

そんな大したことじゃないのよ
ただ
あなたを少し嫌いになっただけ・・・

私自身もわからないの
そんなに大したことじゃないのよ

でも
もう前のように愛せないような気がするの

そう
大したことじゃないのに
もう

心があなたに向かわないの・・・

このグラスを一気に飲みほしたら
また
ほんの１分前のように　あなたを好きでいられたらいいのに

そう言って飲みほした水割りは　いつもより苦く染みた

カラになったグラスをテーブルの上のコースターに置くと同時に

私はひとり
席を立った・・・・・・

ゆきばのない影

追いかけてくるわ！
のみ込もうとしてるのよ！
あの影はわたしを・・・
そう、とって代わろうとしてるんだわ

気がつけば影はわたしとなり
私はわたしに代わってほほ笑んでいた
影の真似をすることしかできない・・・
そのわたしを見て、影はほくそ笑んだ

本当のわたしが閉じ込められた
闇の世界の扉は閉ざされ
声にならない声をあげ
わたしは私の後ろを、そして横を
ただ黙(もく)して歩いていく

私は
影になった　そんなわたしを満足そうに見下ろしている

月光に照らされた青い影
点滅する信号機の色
ネオンの瞬く繁華街
今までは気に留めたこともない色とりどりの世界

気がつけばわたしは
影という自分自身に満足し始めていた

感情を持たず
無理に笑うこともなく
そして悲しみにくれ泣き崩れることもない影に

だからだったのかもしれない
きっとそうなのだ・・・

あなたの影になりたい
アナタノカゲニナリタイ
影でいい・・・カゲデイイカラ・・

そう叫んだ日から
わたしの運命は決まっていたのだ

私は水曜日になると髪を結い上げ紅をつけ
あの人の元に行く

抜け殻になった私の肉体は、
ただ快楽の波に身体を任せ狂い咲く
聞いたことのない獣のような声
薄暗い湿った空虚な部屋
影になりたい・・・
そう呟いたあの日からわたしは私にとって代わられたのだ。

月明りのない暗闇でしか　わたしはわたしでいられない

ゆきばのない影は　わたしの心・・・

消えて・・・

先に待ってるからユックリおいで！
君はいつも走るコトしかしらないけれど・・・

そんな台詞みたいな言葉
最期に言うなんて・・・君は酷いよ！

あれから私
いっぱい走ったよ

うん・・・
泣いてる暇なんてないくらい

んっ！？
なぁ〜に？そうだよ！
私だってたまには泣くよ
知ってるくせにぃ〜
もう忘れちゃったのかな？
先に逝くからだよ・・・
突然に・・・私に何も言わないでさ・・・

この季節は嫌いだよ私
夜が怖いよ・・・
何だかとても孤独なんだよ

あなたがいなくても
笑えてるよ私・・・ちゃんと。

怒んないで聞いてね
好きな人もできたよ！

うん・・・
ワザと片思いしかできないような人選んだ・・・

どうしよう・・・

ねぇ〜
どうしたらいい私？

わかんないや
あなたは　あの日のままの笑顔で
ずっと少年の顔のまま　私に微笑んでるから・・・

解放してよ
もう心を解き放してよ・・・

ずるいね！あなた。

もう空の上でヨロシクやってんなら
消えて！

私の心の奥底から・・・・

君は猫

掴んだ腕すり抜けて
点滅した信号めざし走る君

君は猫

微かにほほ笑む唇が
小さくサヨナラを告げた

宙に舞う肉体が弧を描き
コンクリートに落下する

君は猫

いつも前みて走ってた
走って走って走りぬけて
立ち止まるコトを恐れ
何かに向かって走る猫

立ち止まるコトを知らないし
立ち止まれないんだね
そう
後戻りができないんだ・・・

恐いから
振り向いたら世界が終ってしまうから

君は猫

クラクションが鳴り響く中
車の波をかきわける魚、追うように走る猫

どうやら無事についたようだね。

追いかけたのは僕
どうやら身体が錆ついてしまったようだ

そろそろ行きなよ
振り向いたら負けじゃなかったのかい？

僕かい？
いや・・・
負けちゃいないさ、人生になんて
気紛れ猫みたいな君と
もう、一年以上も一緒にいたんだぜ

負けてなんかいない
ただ、
君より先に人生に終わりを告げようとしてるだけさ

さぁ・・・
もう二度と振り向かずに　そのまま走れよ

瞼が重くて、君の顔も見えないや・・・
このまま眠るよ

猫はさ、
飼い主の前では死なないらしいな

しょせん僕は、
君のような猫にはなれなかったんだな・・・

刺のある華

美しい華には刺があった

その刺には毒があった

そして華は美しく咲き誇った

でも華は毒のある刺で愛する人を傷つけてしまった

そして再び華は美しく花開き

また新しい愛をみつけるのだ・・・繰り返し

言葉。

あなたの言葉は魔法のようね。

私を素直にさせてくれる。

あの人の言葉は呪文のようね。

私を闇に誘いこむ。

どちらも必要。どちらもいらない・・・。

答えは　たぶんもうでてるのに・・・。

「キャッチボール」～鳥野　隆史＆弥馬都__ＹＡＭＡＴＯ

僕の投げたボールを君が受けとめる
君が返したボールを僕が受けとめる
ボールは放物線を描いたり
まっすぐに音を立てたり
いろんな表情を見せるんだ
グローブは泥だらけだけど
ひとりではキャッチボールはできないから嬉しいんだ

鳥野　隆史

あなたが投げかけてきたボールを私は受け止めた
私が投げ返したボールを　あなたはまた受け止めてくれるだろうか？
ボールが今度こそまっすぐに　あなたにとどきますようにと
勢いよく投げ返したらボールは大きく弧を描いてあなたの元に届いた
まるで虹を掴むようにあなたは笑ってそれを受け止めてくれた
両手でしっかり包むように

弥馬都__ＹＡＭＡＴＯ

「心の鍵」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

心の中で眠ってる
錆びついた箱ひらく鍵を探していた
時計の針を逆さに走らせても
月の裏まで旅してみても
思い知るのは空回り
けれども耳をすましてみれば
きみの声が教えてくれる
そしてきみの瞳の奥に心の鍵を見つけた

鳥野　隆史

瞳の奥を覗かれて
隠していた箱の鍵を　あなたに見つけられてしまったの
ずっと内緒にしてたのに誰にも秘密にしてたのに
錆ついた箱は私の心
その鍵を開く人はあなたとは気づかず大切に
今まで抱いて眠っていたの
ああ・・・
やっと私は深い眠りから呼び起こされ
自分の声を手にいれたのね

弥馬都__YAMATO

いわなかった台詞(ことば)

冷たい指でなぞられた後の
突然の激しさが好きよ
大きなあなたの身体と違う
繊細な指遣い・・・

あなたの指は氷のように冷たくて
わたしの熱く波打つ身体を
さらに燃え上がらせるから

もう幾度と重ねた身体の
隅々までも知り尽くす指。

　　今夜のお前は何時もと違うな・・・

そんな言葉をかき消すように
わたしは　あなたを貪るように求め続けた

　　もう終わりにしましょう・・・
何度も言いいかけのみ込んだ台詞(ことば)

今夜の私は演じきれるのかしら
　ちゃんと言わなきゃ
　ちゃんと・・・

用意された台詞は
やがて
熱い吐息へとかき消される・・・

完璧に演じられずに今宵も終幕

　　わたし

明日から暫く旅行に行ってくるね

あぁ、気をつけてな。
帰ったら連絡くれよ！

いつものように微笑む　わたし

たった一言がいえなかった
明日わたし結婚するの。と・・・

「はじめての気持」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

生まれたての赤ちゃんが
いちばんはじめにおぼえる気持ちは
きっと愛情なのでしょう
おかあさんがそそいでくれるぬくもり まなざし 子守唄
それが愛情というものだと学んで大きくなるのでしょう

お腹にあなたが宿ったとき
はじめてかんじた気持ちは
きっと強い母性という愛情なのでしょう
あなたがわたしを選んでお腹にきてくれたその時
それが母になれた喜び
命を紡いでいけたという喜びを感じながら
わたしは母への道を歩きだすのですね

大切な青い糸。

あなたは
気がついておいででしたか？
私の大切な青い糸。
それはあなたの好きな色。
私もずっと覚えていましてよ
愛おしい　あなたの匂いとぬくもりを

今こうしていても感じています
いく千年の歳月を重ねたとしても
ひとときも忘れたコトなどないのです

たくさんの絡まった赤い糸。
金色の雨が降る度に
あなたは丁寧に解きほぐし
少しずつ少しずつ
自分の元へと引き寄せた

やっと巡り逢えたのですね
やっと抱(いだ)き合えるのですね

嬉しさで。
喜びで。
胸がザワザワ波立ちます

月夜の中で抱かれる日
私は太陽の光の中で真っさらに生まれ変わり
あなたの元へと急ぎます

もう少しそこで待っていて下さい
あと少し、あと少し、
繋がったままの糸が一本みえるのです

あなたはそれを私に切れとおっしゃるのですね
とても残酷な優しくも熱い眼差しを私にむけたまま・・・。

「ずっと君を見ていたよ」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

ずっと君を見ていたよ
君の笑顔も 君の涙も
ずっと君を見ていたよ
がんばる君を見ていたよ

鳥野　隆史

この先もずっと私を見ていてね
そしたら私の笑顔は輝くし　私の涙枯れてゆく
ずっと私を見ていてね
そしたらもっとがんばれるから

弥馬都__YAMATO

Take-out

お前さぁ～
笑顔ふりまき過ぎ
てか
なんで　いつもそんなに愛想よくできるのか
わかんねぇ～つうの

ムカつく客も来るっしょ
　　そうそう。俺みたいなヤツ！
って
そこでツッコミ入れんなよ

たまには普通のすました顔でも　いいじゃん
スマイルにさ
時給つかないんだし

だからさ
もう笑うなよ

疲れた時は
疲れた～って顔してりゃいいんだからさ

あんなに笑ってると
お前がお持ち帰りされるんじゃないかって
心配なんだ・・・

俺が二か月前に　そうしたようにさ

頼むから愛想よくすんなって
なっ！

今日も持ち帰ったし
今、ここで食べるわ。

お前の気持ちが冷めないうちに。

・・・・・・・。

欠けてゆく満月

今宵は満月
月が　まんまるになって満たされる日ね

あなたが　わたしをみつけてくれてから
何度も何度も繰り返された特別な日

満月の日は心が踊る

満月の日は血が騒ぐ

満月の日はあなたを求める

満月の日はあなたに逢いたい・・・
そう
会いたいのではなく逢いたいのです

そんな子供じみた考えを
あなたは気づいててもみないふり
そんなあなたが好きなのです
だからあなたが愛おしいのです

　　バカだね！わたし。
いままで一度もそう思ったコトなどないのに
バカばっかり重ねてる

少し疲れているのです
あなたが感じている以上に

少し絶望してるのです
わたしが　わたしでなくなる日常(じかん)に

素顔をみせてはいけないような
そんな時間に嫌気がさしたのです

満月の日に酷な時(じかん)
満月の夜に手折られる残酷

もう壊れればいい
いっそこのまま・・・

私の小さな叫び声は届かない

輝く星達が邪魔をするから
雲があなたを覆うから

もう嫌なのです

このまま消えても
ちっぽけなわたしの存在を
あなたは少しの時間(とき)とともに
すっかり忘れてしまうのです

最初から存在すらなかったのように

でも
それでいいのです
それがいいのです・・・

ただ、
厳しい寒さに埋めていた悲しみが
少し顔を覗かした　あなたコートを纏う朝
ふと太陽に顔をむけ懐かしいような感情を
想いだしてくれるなら　わたしは　それで幸せなのです

桜が潔く散る季節に出逢い
わたしがどれほど
あなたに幸せな時間を与えてもらったか
あなたの記憶の奥深く　刻まれいれば満足なのです

あと何回、不完全な半分と重なり合えばよいのでしょう

あと何回、満月の夜に心だけ
あなたに抱かれにいったなら　わたしは満たされるのでしょう
あと何回、あと・・・

そう呟く間にも
月はまた、少しずつ欠けてゆく

わけわかんないね・・・

どうして死んじゃった人には、もう逢えないんだろう
ただ、肉体が滅んだだけなのに・・・

どうしていなくなるときに、
心からも消えていなくならないんだろう

どうして逆に鮮明に　髪をなででくれた指の感覚や
わたしが泣いてたら
　　ムギュー！
て抱きしめてくれた時の匂いとか
ふと、おもいだしたりするんだろう

どうしてそのことを　おもいだす度に　泣いてしまうんだろう
わたしの泣き顔が一番嫌いだった人なのに・・・

どうしてだろう、どうしてかなあ・・・
考えても答えのないことを
また最近考えてるのは何故だろう？

もうすぐ
わたし自身の肉体が滅びる瞬間(とき)が近づいてきてるから？
もう、あまり時間もないみたい・・・
砂時計の砂、もうすぐなくなる。
もう、ひっくり返してもダメみたいよ

でも逢えないんだね。キット
わたしは、あなたがいる雲の上にはいけないみたい

羽根、捩がれちゃったから飛べないや
しかも左半分のバランスが崩れてるし

死んじゃってからも　逢えない気がする

なんだか今日、いままで以上にわけわかんないね
わたし・・・。

今日のわたしにさようなら

泣き虫な　わたしなんて
だれも必要としないから
今宵はクマをナイフに持ち替え
膝を抱えま～るくなって
眠りにつこう

泣き虫の　わたしを
自ら夢の中で危めるのだ！

目覚めれば
いつもの笑顔のわたしが
元気一杯に
　　おはよう♪
と、キット声をかけてくれるから。

「珈琲の笑顔」鳥野　隆史＆「シュガーの誘惑」弥馬都__**YAMATO**

苦くて渋い泣き虫の珈琲
初めは泣き顔しか知らないけれど
ミルクと出逢えて柔らかな表情になる
それから砂糖を入れる
さじ加減さらさらきらきらくるくる
そうしていつのまにか笑顔を知るよ

「珈琲の笑顔」　鳥野　隆史

笑顔を知ったらわたしの勝ちね
苦くて渋い想いは嫌よ
あなたと出逢えて優しくなれた
今度はあなたのハートの中に
甘い甘い砂糖をふりかけて
私に夢中にさせちゃうわ
甘く染まったわたしのハートと
どちらが先にとろけるか確かめてみたいもの

「シュガーの誘惑」　弥馬都__YAMATO

今朝受け取った荷物

嫌だわ！！！
さっさと片付けてよ！
彼女に届くはずの荷物？
そんなモノ見たくもないわ！
しかも１年前に出した荷物が　今頃もどってくるなんて・・・

だから手で勢いよく箱を破いたのに

多分あなたのことだから
また箱に戻して
綺麗に閉じて　しまっておきそうだったから・・・

本当にイヤね。
いつまでも鑑賞に耽ってるように見えるのよ

前の女(ひと)との思い出なんて
掃除機で吸い込むより、
スグにゴミ箱に放り込んであげる

ちょっと待ってて！

そうい言うと　私はできるだけ冷静を装い
クローゼットの扉を開けに行く。

あなたが仕事に行った後、
届けられた　わたし宛の大きな荷物
それをモップを探すふりで、奥の方へと押しやる為に

んっ？
送られた日付けがいつかって？？？

たしか

３ヶ月前だったかしら・・・

えっ！？
女は男よりいろいろと抱えてるのよ・・・

弥馬都__YAMATO

☆参考までに以下、
僕の半分　私の半分　BLANCO３　で半身と共に書きあげた作品の転記

「昨日の小荷物」

ここに置いておきますよ！
そういうや郵便屋はすぐに出ていってしまった

小荷物

そう
さほど重くもない
さほど大きくもないダンボール
差出人は自分自身
１年前の日付

重くなって送り返したのかな？
それとも
要らなくなって送りつけたのかな？
なんだか少し開けられずに見つめていた

なら
わたしが開けてあげるわ
だって中身に興味があるもの

小さな箱の中だもの

たいした荷物じゃないはずよ

鋏なんていらないわ
こうやって、手で勢いよく破ればいいのよ

ほら！

ぶちまけられたのは
小さく小さく
それは小さく几帳面に折りたたまれた想い
すこし居心地悪そうに
床に散らばっては僕を見上げた

あれ？
そんなところにいるのか？
まだ
そんなところにいるのかい？
彼女に届けられるはずだったのに
ここへは届かなかったはずなのに
今でもまだ
そんなところにいるんだね

でもさ
大丈夫そうじゃないか
僕がこうやって散らばってるってことはさ
つまり
そういうことさ

冬の鈴虫

松虫、鈴虫リンリンリン

鈴の音(ね)鳴らしてリンリンリン

恋に焦がれてリンリンリン

届かぬ想いと知りながら
想いの丈をぶつけるように
美し聲でリンリンリン

恋に焦がれて鳴きつかれ
冬の訪れ感じる頃にゃ
聲も枯れつき身も滅び
土に還ってゆきました

ピューピュー木枯らし吹く夜に
最期にきいた鳴き聲は
鈴を転がすようでした

メビウスライン～(弥馬都__YAMATO編)

ほぉ～ら！
こうやってなぞるのが好きさ。

お前のこの身体の線を・・・

反応が面白い！
敏感なんだなっ
しかも
肌触りがいい。
最高だぜ！

やせっぽっちの身体にまとった皮膚の感触
柔らかい腰のライン
小さくて張りのある胸
なんとかビーナスみたいには、いかないけど
それなりに綺麗だ！

な～にむくれてんだよ
褒めてるんだぜ！お前をさ

乳房もさ
ジャストサイズ！
ちょうど片手にフィットする・・・

だからさ
だから明かりつけさせろよ
いいだろ？なぁ・・・

お前がさぁ
月明かりしか許さないのは知ってるさ

だけど、だけどさぁ～
今夜だけはしっかり目に焼きつけておきたいんだ！
お前の身体の滑らかなメビウスラインのような曲線を

そのラインのように
果てなく続く快楽の前に・・・。

「眠れぬ夜と　やってきた朝の幸せ」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

みんな幸せで自分だけが不幸せ
そんな夜もあるけれど
眠れぬ夜もあるけれど
そんなときは自分の幸せを数えてみよう
人と比べるのではなく
自分の幸せを数えてみよう
幸せはたくさんあるでしょう
朝の光はやってくるでしょう

鳥野　隆史

ほんとうね 朝が今日もやってきたね
今朝は雨が降ってるけれど
新しい朝は必ず来るね
わたしの幸せって何だろう？
そんなトコ考えて眠れなかった夕べ
あなたは幸せなのかな？
そうおもうと　キュン！　となったわたしのハート
おはようの先にあなたがいてくれたら
わたしは今日もキット幸せ

弥馬都__YAMATO

「君がいる幸せ」～鳥野　隆史＆「ここにいてくれるコトの幸せ」～弥馬都__YAMATO

おはようって言える君がいるから幸せ
おはようって君が答えてくれるから幸せ
おやすみって君が言ってくれるから幸せ
おやすみって君に答えたら夢で逢えるから幸せ

おはようって言えなかった朝
おはようって答えれなかった朝
おやすみも言いそびれた夜
少し蹴躓いてうつむいて笑えないような日だったから・・・
でも夢の中であなたに逢えたから　おはようって笑えそうな今朝
今日もあなたがここにいてくれるコトの幸せ
ありがとう

風邪ひいた

大好きな人が今度は風邪ひいた

わたしがうつしたんだって！
遠く離れてるのに可笑しいね

風邪ひいて弱ってるのに・・・
そんな風に言われると
何だかチョッピリ嬉しくなった朝

つくづく単純にできてる　わたし

あれっ？可笑しね！？
バカは風邪ひかないって言うのにね

そんなふうに始まった今日という日も
もうすぐ終わるね

夜更かしな　あなたが今宵くらい早く眠れますように
わたしは何時もより少しだけ　甘えるのはやめよう

明日あなたが元気でありますように

おやすみなさい

やっぱり今日も大好きだよ

「ささやかで大きな幸せ」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

おふろに入る肩までつかって
 あたたまる一日の疲れを流したら
おひさまの匂いのバスタオル
そして
布団の中で夢をみる
あたりまえのことが とても幸せ
ささやかなことが とても幸せ

ささやかで
あたりまえの先にあなたがいてくれたら
それはとても幸せなこと
こうして同じ時間に同じことを考える
そういう何気ない瞬間がわたしには幸せ
離れていても　いつも繋がっているようで
とても幸せを感じる時間
大切で切ないけれど幸せの時間

「おひさまと　わたしの愛しいお月さま」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

あなたの笑顔はあたたかい

あなたの笑顔はまぶしい

あなたの笑顔は元気をくれる

あなたはまるで　おひさまです

あなたの心は穏やかね

あなたの言葉は唄のよう

あなたの優しさはとても強い

あなたはまるで　わたしの好きな月のよう

「トカゲだ」夕日知己(ゆうひ・ともき)＆「のみ込まれた僕」弥馬都__YAMATO

「トカゲだ」

またトカゲだ
トカゲがついてきた
地下鉄の網棚を這い
街灯を避けて側溝を抜けて
うしろにいなくなり先回りをし
部屋にわいたハエをどうやら食べた
トカゲがどこかで隠れて見てる
僕を見ている
僕はトカゲを食べたことがない
だがトカゲは僕を
僕を食べるのだ
宇宙探査機のようなその目に
大きくうまそうに映った僕を
僕をトカゲは食べた

夕日知己(ゆうひ・ともき)

「のみ込まれた僕」

僕をのみ込んだトカゲは
美味そうに舌舐めずりをしたと思ったら
一瞬にして僕を吐き出した
床に落ちる肉体
ああ！なんてこったい！
トカゲまで僕を選別するのかい？
長く寒々とした夜が明けると
何時ものように僕は紺色のスーツに身をつつみ家を出た・・・。

弥馬都__YAMATO

「電車」鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

眠りについた君が肩にもたれる

電車が走る 景色が流れる

電車の音 鼓動の音 電車が揺れる 心が揺れる

各駅停車の線路の上で

眠りについたふりして　もたれかかるあなたの肩

電車が走る　景色が流れる

私のハートの高鳴り　この胸の鼓動

心が躍る　ドキドキが止まらない

私のハートは特急列車のよう

「熊と人間」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

熊は人間に撃たれました
人間の暮らす世界に入ってきたのが悪いのだと
熊は人間に撃たれました
人間が暮らす前そこは熊の森でした
熊は人間に撃たれました
そしていま熊の亡骸が横たわっています

鳥野　隆史

人間はただ怯えるばかりで
銃を簡単に熊へと向けたのです
森の神は嘆きました　山の神は怒りました
人間の愚かさと現代の様々な欲に
だから時々、雷を伴った大雨が降るのです
神々の悲しみに似た怒りを表すように・・・

とても悲しい
けれどキチント考えなければいけない
問題なのです

弥馬都__YAMATO

灯火

寒々とした世界
無表情な同じ顔
キリキリとした時間
張り詰められた心
毎日毎日
同じコトの繰り返し

少し疲れたのか
もう
その疲れにも慣れっこなのかも
わからない感覚
繰り返される毎日(にちじょう)

風のキツイ日 荷物を抱え
開けようとした扉

そんな時、
不意に後ろから扉を開ける手

振り向くわたし
目が合った瞬間
心に灯里(あかり)が灯り
さり気ない仕草に
浮き立つ心

何故だろう？
昔よんだ少女漫画のような
トキメキ１つやってきた

風が運んだ一瞬の
悪戯な恋に似た不思議な感覚

硝子の扉に映るわたしの顔
いつもと違う少女のよう

ほら綺麗でしょ
あら素敵じゃない

作業着のような制服だって

まるでドレスのようにも見えてきた

無表情な同じ顔に紛れ
今まで忘れ去っていた想い

心に灯里が灯るのは
ふとした瞬間
思いがけない出来事

女であることさえ忘れ
心までかたく閉ざし
がむしゃらに、
ただ、がむしゃらに・・・。

心の奥　閉じ込めた感情
ふと、
呼びさます
私の中の女の灯火を
ある風の強い日の出来事が。

逃げろ！

ねぇ、
早く逃げた方がいいよ
僕、君を壊そうとしてるから

ねぇ、
思い切り振り向かずに走りなよ
僕、君を捕まえようとしてるから

ねぇ、
眠るときは夢みないほうがいいよ
僕、君を何度も何度も
夢の中で手にかけたから

憎いんだ
憎いんだ、君が・・・

いつも幸せそうに笑ってないで
たまには苦しい顔もみせろよ

そうさ、君が憎い
君がとても

だから閉じ込めておくんだ
そのままの君を

だから変えようとするんだ 自分を
ああ！そうさ
変われないのは知ってるさ

綺麗なままでいた頃の僕
美しく疑いを知らない心の僕
未来を見つめていた時の僕

だから君の思い出と一緒に

閉じ込めておきたいんだ

結局、
君を捕まえたところで
僕は僕自身しか愛せないんだけど・・・

新たなる呪縛

硬直して一歩も動けなくなった私を
導いてくれたのは誰でもない　あなたでした

あなたの言葉に救われて
あなたに安らぎ求めつつ
纏わりつくよな女には
決して成り下がらぬようにしなくては・・・

あぁ、
今の私にはそれが
新たに心を締め付ける恐怖となって襲いかかるのです

一生分の涙

わたし
もうこの先に涙ながすコトなんて無い！てくらい
今日、泣いたんだよ

大好きな人の言葉に泣いた。
嬉しくて泣いた

君が好き！みたいな
みんなが思うような言葉じゃないよ

ん？
気になるから教えろって？

ダメだよ！教えない！！！
絶対に秘密。

言うと魔法が消えちゃうの

前にも泣いたコトあったな

いつも　わたしは
わたしの大好きな人の言葉に救われる

神頼みなんて困った時しかしないけど
神様以上の人なんだ

だから手が届かないんだね

だからズット大好きでいられるのかも知れないね

矛盾してるけど、少し変だけど
やっぱり一番好きなんだ！

ありがとうしか言えないけど

わたしがチャント笑えるような
魔法の言葉と幸せをありがとう

わたしは何ができるんだろうね？
答えなんて見つからないけど

とにかく今は涙止めなきゃ！
思いだしただけでも泣いちゃう・・・

鼻水もでてきた！
こんなグチャグチャな顔、誰にも見せれないや

でも嬉しくて泣いてるからいいや！

魔法の言葉が消えないように
猫みたいに　ま～るくなって今日は眠ろう
大切に宝物以上に大切にしたい
とっておきの言葉と優しさを
ムギュ！って抱っこして

おやすみなさい
わたし今日もやっぱり一番あなたが好き

ゼンマイ仕掛けの僕

もうすぐ僕は壊れるよ
ほら！
残り少ないゼンマイの音
もう
カタカタ
聞こえてきたから

君が他に興味を移して
僕を放置してたから
古い僕の
ゼンマイも少し錆ついてきたみたいだ

君がおもちゃ箱
ひっくり返し僕を慌てて探しても
もう僕は動かないかもしれないよ

今なら間に合うよ
早くおもいだして僕のコト

まだ間に合うよ
早く僕を救いだして

暗い暗い箱の中
このまま忘れさられるのは
まっぴらごめんさ！

手にとって
ゼンマイを巻いておくれよ　今すぐに

なんなら巻き過ぎたっていいんだぜ！
逆に壊せよ！
君のその手で僕を！

ピンッ！

っていう音ともに
ゼンマイは飛び散る
そして二度と僕は元には戻らないさ

ケ・セラ・セラ

軽い気持ちで引き受けたのよ
まさかこんなコトになるなんて

でも
仕方ない！
ケ・セラ・セラ
なるように～なるわ～♪

そう教えてくれたでしょ？

やっちゃったものは仕方ない
あとは、トップを目指すだけ！

意外と簡単？お手の物！？
笑顔振りまき、たまに黙んまり
少女と娼婦の使い分け
表面上のコトだもの
何とだってできちゃうわ！

ケ・セラ・セラ
なるのかしら？
本当に？？？

無理だとしても
もう、戻れない
一度引き受けたんだから！

ならなきゃ、そう仕向けるまで

ケ・セラ・セラ

悲しく虚しい呪文を胸に。

「満月」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

水瓶からあふれる水のように自分が満たされて
初めて相手にそそいであげられるのだと思います
だからまず自分を愛で満たしてあげようと思います
今夜は満月が暗闇を照らしています

鳥野　隆史

水瓶から溢れる水を両手ですくい飲み干した
水瓶にうつる満月は私の指からすり抜けて
また水瓶の中へと還っていった
いつになれば愛しいあなたを手に入れることができるのでしょう
自分以上にあなたを愛しく感じているというのに

今宵は満月
また月は欠けてゆくのですね

弥馬都__YAMATO

重い荷物

抱えきれないほどの重い荷物なら
いっそ、このまま手から滑り落ち
床に転がればいいのに・・・

でも人生という名の荷物は
それがたとえ
どんなに重く苦しくても
抱えていかなきゃいけないんだ。

時折ふいに襲う哀しみに
自分を見失いそうになる。

進まなければ・・・
進まなければ。

そう呪文を唱えながら
僕は前だけむいて歩いてきた。

いつかこの荷物を降ろせる日が来るんだろうか？
ふと、そんな夢みたいなことも考える。

無理だと知りながら

君に打ち明けたら
君までが目の前から消えてしまいそうで
僕は今日も躊躇う。

もう暫くは
僕には君の優しい笑顔が必要だから。

だから僕は今日も何もなかったかのように
君の前でおどけてみせる。

いつかこの苦しさから解き放たれ

君を抱いてみたい。

叶わぬ夢さ・・・

「はじめての気持ち」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

生まれたての赤ちゃんが
いちばんはじめにおぼえる気持ちは
きっと愛情なのでしょう
おかあさんがそそいでくれるぬくもり まなざし 子守唄
それが愛情というものだと学んで大きくなるのでしょう

鳥野　隆史

お腹にあなたが宿ったとき
はじめてかんじた気持ちは
きっと強い母性という愛情なのでしょう
あなたが私を選んでお腹にきてくれたその時
それが母になれた喜び
命を紡いでいけたという喜びを感じながら
私は母への道を歩きだすのですね

弥馬都__YAMATO

おやすみなさい

絡めあった指
繋いだ手

眠りにつくと　ほどけてしまう

でも
心を繋ぐ　ほんわかした気持ちは
見えないリボンでしっかり結ばれているから
あなたの横で
今日も安心して眠れるの

おやすみなさい・・・

舐めて

ヒタヒタ・・・
と音もなくやってきた野良猫
傷口を
ペロ！
っと舐めた。

ざらついた感触
滑った感覚
ぞくっ！
と震える肉体(からだ)
心地良い気分

キャッ！
という甘美な音
あぁ・・・
という
ため息のようなわたしの声

抜け出せなくなる迷い道

思いだせない帰り路

来た道は覚えてるのに

身体がそれをはねつける

ピシャ！
という音
何の音？

心を閉ざして快楽へ
更に進む音かしら・・・

帰り路などないコトに

心が折れた音かしら？

ざら！
っとした舌先
ヌメ！
っとした感触

心の片隅に追いやったあの人の顔
呼び起こす

野良猫を
息もできないくらい
ムギュ！
と締め付けるように抱きしめる

声だか音だか雑音なのか
なんだかわからない音楽のようなものが
微かに聴こえた・・・

でも
傷口を舐めて癒せるのは
野良猫じゃない・・・。

椿。

椿の蜜が甘いよ。
と、そっと手折(たお)ってくれた花

初めてくちにする味が
あまりに甘く美味しくて
心も甘く染めあげた

ときめく胸に咲く花は
あなたの好きな椿の華

黒髪に椿かんざし一輪さして
藍の大島赤い帯
遠く離れたあなたを想う
幸福(しあわせ)色の昼下がり。

吠える者達

満月に向かって吠える狼
その遠吠えは勇ましく強い

ネオンの中でしか吠えれない負け犬
なんて情けないんだろう

うるさいのよ！キャンキャンと
中身のない話して
どうせ考えてるコトは　ひとつの癖に

気安く触らないでよ！
愛でるだけでじゅうぶんでしょう

耳障りなの
甘い台詞並べ吠えたてて
普通の話ができないの？

嫌なのよ
触れられるのが
おとなしく座ってて！

溢れるほどの美酒を注ぎ
蝶をはべらせ満足でしょう

ほら！唄ってあげるは愛の歌
ちょいとそこのお兄さん
滑稽な我が身と重ねてお聴きなさいな

ほんとの愛など転がっちゃいない
広くて狭い箱の中

時間と共に妖艶に色づく蝶を置き去りに
今宵もカナリア

お先に失礼いたします。

神様なんて信じないけど・・・。

守りたいのに守れない宝物に傷がつくコトが、
とても怖いんだよ・・・。
特に目に見えない傷が・・・。

街には美歌が溢れてるのに神様なんて信じない。

でもそれ以上の人が存在してるから
わたしは今日も空気を吸い込む。

あなたは　わたしの神だ！

まどろんだまま・・・

溶けて溶けて・・・。
このまま空の
冷たい青に溶け込んで
まどろんだまま消えてしまいたい・・・

神が存在するなら

クリスマスウイーク

街には愛に溢れた言葉が飛び交っているよ　溢れているよ。

その音楽のような優しい会話をききながら

わたしは今日を生きている

クリスマス・イルミネーション

イルミネーション派手すぎて！
負けてしまうわ　わたしのラヴラヴ光線が

今宵こそ大好きなあなたを落とそうと
やっとデートにこぎつけたのに

イヴになんか誘わなきゃよかった

ちょっぴり悔しい
ほんとうは嬉しいイヴの ひとりごと

イヴの夜

いろんなことがあるけれど、
今宵くらいは世界のみんなが幸せ色の
素敵な夢に包まれて眠れますように。

そして目覚めた世界にも
小さなHAPPYが溢れているよ！
と感じる朝をむかえられますように〜。

赤鼻の可愛いトナカイ

　　あ〜ぁ！鼻が真っ赤だなぁ
　　僕が少し遅れたからな・・・。
　　まるでトナカイみたいじゃないか。

君はニコニコ笑いながら
冷たく冷えた手を僕のコートの中に
すべり込ませて
　　ポッケの中で手繋ぐと、あたたかいよ！
て頬まで真っ赤に染めて はにかんだ

　　今日はどこを歩いていても
　　クリスマスソングで溢れているね

サンタガールは苺の乗ったケーキを大声で
バイクに乗ったサンタはピザを届けに
街中は賑やかで笑顔がたくさん。

さぁ、一緒に帰ろう
あたたかな家に

さぁ、君と過ごすイヴの夜
飛びきり素敵な甘い時間

　　１分１秒が待ちきれない！
　　走って帰ろう！

僕の返事を聞く前に
君は繋いだままの手を
ポケットからスルリと抜き出し走り出す

ハッピーハッピークリスマス
メリーメリークリスマス

　　君とどこまでも

　　このまま走り続けたい

僕の声は賑やかな笑い声にかき消され
君の耳には届かない！

ハッピーハッピークリスマス
メリーメリークリスマス

赤鼻の可愛いトナカイ
僕は君のサンタになれるかい？

そんな甘い台詞より
君は前だけ向いて走る

僕の可愛い赤鼻のトナカイ

あぁ・・・
僕も家に着くのが待ちきれないや

クリスマスソング

勢い良くドアを開けて
息弾ませながら今日も君は　やってきた

　　なんだかこの時期街はとても賑やかで
　　心がウキウキしちゃうわね

そういって君は１枚のレコードに針を落とした

古いレコードは
雑音まじりに懐かしい音楽を奏でる

振り返る時間(とき)
試されてる時間

　　懐かしいな・・・。
そう口にした瞬間
君はすべるように僕の膝に
チョコン
と座る。

　　んっ？今でも素敵だよ！
　　この曲。

楽しそうに幸せそうに微笑む君(ひと)。

この曲はもう僕の記憶の奥底に沈められた曲
あの頃の思い出がよみがえる

　　素敵な女性(ひと)だったんだね
　　キット！

あまりに明るく言うから
僕は過去という鑑賞に浸る暇なく

今に引き戻される。

君は不思議だな
いつだってそうさ
不意に表れ
朝がくれば消えちまう・・・。

どこで、何をしてるのか
僕が君を呼んでる名が
本当のモノなのかさえも
わからない。

　　わたしね
　　クリスマスに一つだけ欲しいものがあるの～

あぁ・・・
あの時と同じ。
そうこの曲を創った時と

　　君はどこから来たの？
　　君は誰？
　　君は僕のコトなんでもわかるんだな～

そう言おうとした瞬間
君は振り向いて僕の頬にKISSをする。

　　クリスマスソング。
　　わたしの為だけの、クリスマスソングが聴きたいの・・・

あの時と同じことば
まるでお気に入りの映画を繰り返し、みているようだ

あのとき愛していた女(ひと)と同じコトを
あのときと同じ表情で・・・。

生まれ変わりかな
いやいや、まだ彼女は死んじゃあいないし・・・

娘にしては年が合わない。

いろんなおもいが頭をよぎる

愛しい女性(ひと)
可愛い君(ひと)

　　そうだね、
　　あの頃の曲とは違う
　　君だけのクリスマスソングを歌おう

今宵の為に
君だけの為に

Merry　Christmas
Merry　Christmas

素敵な夜に
君がズット幸せであるように

Merry　Christmas
Merry　Christmas

君の幸せな笑顔が続くよう
僕は歌おう

　　ありがとう。

創った曲に嬉しそうに耳を傾けながら君は微笑む

　　あなたは何をサンタさんに願うの？

あぁ、
そうだね！
僕かい？
君が朝に消えていないことを願っちまいそうだ・・・。

二兎追うもの

二兎追うもの一兎も得ず
そんなことは知ってるわ！

なら三兎追えば全てが手の中に・・・

な～んて口だけは立派なもんね！

実行してみなさいよ、
夢も希望も、地位も名声も
全てその手で掴みとりなさいよ！

３年の月日で俺は掴みとったぜ。
お前が言った通りにさ！

でもさ・・・

何か足りないんだよな・・・

なんだろうな？

一番肝心なモノ。
掴みそこねた気がするな・・・

あぁ、そうか！

今、横に侍(はべ)ってる女が
お前じゃないってコトかもな・・・

さ～て、
飛び切りの一兎を今から取り戻しに行くか！

裸の王子

映しだされているのが
本当の君じゃないことを僕は知ってる

チャライ外見とは裏腹に
衣服という鎧の下に隠された
たくましい身体

細い指先が
弦と戯れても

澄みわたる空にも負けない歌声は
作られた幻想

君は美しきエロスの魂を
抱えた選ばれし人

描かれし幻想の中の選ばれし王子。

魂の叫びを音にのせ
集まる蝶に蜜を与え

今宵もまた自分に酔う。

あ〜あ！
また自分のコト分析しちゃったよ。

実は男っぽいんだぜ！
な〜んて
口が裂けても言えないに決まってる。
今どきのJKの夢壊してどうすんですか〜？

って、
お前に言われちまいそうだ！

なぁ
でも、俺の裸。

お前に負けてねえよな

な～に照れてんだよ！

シーツの中に潜ってないで顔だしなよ。
なぁ・・・

額縁の中の お月さま

この身に毎日ふえる傷

そのたび心も傷ついて

もう涙さえも枯れ果てた。

箱の中　暗い暗い箱の中。

小さな小さな箱の中。

窓枠という額縁に　彩られしは　お月さま。

薄ぼんやりと穏やかに　今日もわたしを照らしてる

僕のお月さま

窓枠飾りの向こう側にいる　お月さま。

どうかお願いです。

僕が今日なにもなかった顔をして

明日いつものような顔をして、

大切な大切な宝物を抱きしめて

また歩いて行けるように、

その穏やかな月光で

僕の心を優しく抱いて

僕が眠りにつくまで・・・

「心って何だろう？」～鳥野　隆史　＆　弥馬都__YAMATO

心はどこにあるの？
心はどこから来るの？
心はどんな姿なの？
心は壊れるの？
心は死ぬの？
心はどこへいくの？

心っていったい何だろう

鳥野　隆史

あのね！
心はｲﾂﾓ臆病だから息を潜めて隠れてる！
心が姿みせるのはあなたに恋した瞬間なのよ！
熱く潜めた想いにのせ
悲しかった日常を　楽しかった瞬間を
アナタだけに打ち明ける
ソノ時初めてみえるものなのかもしれないわ！

キット素顔をみせたい時にだけ存在するのかもしれないわね

弥馬都__YAMATO

最終回

最終回と初回放送
どちらか選ぶとしたら？

そんなの、
どっちだっていいじゃない。

初回放送はこれから始まるドキドキがあるし
最終回は結末がハッキリするわね！

わたしなら
これから出逢うワクワクを大切にしたいし
ハッピーエンドか悲劇に終わるかの結末は
それはそれで受け止める！

どちらも想像以上にやってくる現実なのよ

素直に、
そして期待してればいいのよ。

悩むなんてバカみたい！

そう言い放った　わたしが
突然やってきた新しい出逢いと、
不意に訪れたあなたとの結末に
一番戸惑いを隠せないのは
あなたを本気で愛していたからだというコトを
あなたは知らない・・・。

あぁ・・・

ドラマティックな戯れになど手を出さなきゃよかった

明日は・・・

珍しく
背中合わせで眠る夜。

君が風邪をひいたから

ベッドの端と端。
手だけ　う～んと　のばして
指を絡める。

喉痛さんの　お喋りな君に変わって、
どうやら今夜は指先が踊りだしてる。

軽く力を入れてきた！
僕は優しく握り返す。

　　ふむふむ
　　そうかぁ～。

まさしく君の言いたいコトが
手に取るように伝わるさ！

ギュギュッ、ギュゥー

僕も想いを込めて握り返す。

我慢できなくて
振り向いて君の長く素直な髪を指ですく。

背中越しに抱きしめる。

　　あぁ・・・。
　　もう、限界・・・

風邪のせいのか、

これから起こる危険な？ドキドキへの期待なのか
振り向かせた君の頬はいつもより赤く色づいている。

明日は
ふたりして寝込みそうだな・・・。

買い替え時ですか？

電池の切れた腕時計は
もういらないんだって！

今は簡単に代わりになる時計が
スグ手に入るから

付加価値付けて
高級時計を気取らされてても

しょせんそういう世の中さ

もういいかな
て、
思うけど

もういいよね
て、
考えてたけど

少し寂しい今日の午後。

電池さえ入れ替えりゃ
まだまだチャント動くのに。

狂いなく
しっかり時も刻むのに。

投げ捨てるように置いてきぼりされた
質屋のウインドで、

今度の持ち主さがしましょうか？

今度は
このまま売れずにココにいたいな
わたし・・・。

夕べの紅に想う・・・

白いシーツに咲いた華
散り急いだわけじゃなし
美しく散ったわけじゃない

紅色の花びらひとつ
闇夜に紛れ何処へやら

月のない夜(よ)の
１ページ

赤き血潮の日の丸に似て
散りゆく悲しさ思い知る

あぁ・・・
とため息なんの聲

耳に残るはあなたの聲か
はたまた空耳　月の聲？

波は押し寄せひいたまま
奏でる音楽
いと悲し

鏡に映るは誰の顔？
初めて逢った女(ひと)のよう

不思議な一夜が通り過ぎ
なにもないよに過ぎ去る時間

真の叫びは届かぬままに
紛れて消え去る私の祈り

神と崇めしあの男(ひと)さえも
ただの男に成り下がりゃ

何を望めばよいのやら
何を見つめりゃよいのやら

さっぱり分からぬ迷い道
どうか差し出す私のコノ手
どなたか掴んで下さりませぬか？

不浄な宵を過ごしたが
まだ心までは汚れぬ前に・・・

壜（bottle）

壜を沢山並べ
太陽の光にさらし

中のモノが干からびる間

いったい何回お茶を飲み

眺めなければならないのか・・・

その遠い遠い道のりに軽いめまいを感じながら

今日もわたしは濃紅茶を口にする・・・。

＊壜（bottle）〔名詞〕　消してしまいたいものを入れるガラス製の容器

あなたの残した小さな手

大丈夫！
僕が君を守るから

そう言い残して滅んだ肉体の代わりに
小さな手を　わたしは繋ぐ

想い出を解き放しながら

想い出を築きながら

過ぎ去る時間を

わたしは鎧をつけた重たい身体で
今日も泳ぐ

沈まぬよう
浮かばぬようにと・・・。

リセット

もう僕は歌わない
歌えないんだ
声を失ったから

もう僕は月を愛でることもしない
みつめるコトができないんだ
真実をみてしまったから

それでも時折なにか
無性に叫びたくなるんだ
そして
ただむなしく風にかき消されていくだけなのに
愛を囁きたくなるんだ

幾度となく繰り返してきたコトなのに
もう、そうしていれば穏やかな湖が
海のように波立つコトはないのに
繰り返し繰り返し繰り返し・・・
そう、君は何もわかっちゃいないんだ

疲れたんだ、とても
もう苦しみも感じないくらい

君は君として君のまま生きていけばいいさ
僕は僕のまま生きるコトに疲れたんだ、もう・・・

だからリセットするんだ
簡単なコトさ。
ひとつスイッチを押せばいい！

ほら！
新しく勇ましく
希望の冒険に繰り出そうと意気込んでる
新しい僕が再登場しただろ？

今度は武器も吟味して、
仲間もちゃんと使えるヤツを選ばなきゃ
本物の人生に、リセットは、もうきかないから。

さぁ！第三ステージの幕開けだ！
今度は一緒に戦ってくれるかい？

迷夜の想い

思いだせない夢。
黒い闇、
光る星、
流れる星、
穏やかな月光に浮かび上がるふたつの影、
静けさを破る叫び、
高鳴る鼓動、
熱くなっていく私の胸の奥、
愛を裏切る心臓、
ついた嘘、
いつかの雨に溶けた涙、
あなたを求める指先、
焦り、
退き、
駆け出して、
追いつこうとして、
追い越してしまう想い。
繰り返す過ち、
戻れない路(みち)。

震える小指

今度は要らなくなったら
私から握りつぶしてあげるわ！

　グチャッ！
という音を立てて息絶えるまで

楽しみにしてらしてね

今宵新しく
咲き誇るコトができたから

また
あなた様の目にも何時かは　ふれるでしょう

人のウワサとは

高鳴る心臓の音よりはやいもの。

あぁ
紅を指す小指が　これから起こる
期待なのか不安なのかわからない感情で微かに震える

傾く

痛みは一瞬で消え去った。
また新たな痛みが僕をのみこみ
闇に引きずり込もうとするのは
もちろん知っているさ…

そして僕は暗い黒一色の闇を
穏やかな微笑みで青の世界へと変えてくれる
君の存在を知ってしまった

あぁ…ますます君に傾いていきそうだ！
バランスをとるのが簡単ではない現実の中
僕は 君に
心が傾いてしまわないよう
バランスを何時までとり続けるコトが出来るんだろうか

自信がないな～

貴方様の棲む家に鬼がおるんよ！

鬼じゃ鬼じゃ
あぁ・・・
コワいこわい！

貴方様の帰る家には鬼がおるんよ。

貴方様は知らんだけ、
見た目は福々しい顔やから・・・

いっつも朝から真夜中まで、
わたしに電話かけてきて
貴方様を返せ！て、言うてきはんねん・・・

おかしな話やなぁ～
貴方様は物やないのに、
ちゃんと血の通(かよ)っとる　お人やのになぁ～

返せ！言うのもお門違いや。
わたしが盗んだように言うんよ。
変でしょ？

前はなぁ～
猫や言いいはんねん。わたしのコト・・・
　　泥棒猫！！！
やねんて～

貴方様の膝にチョコンと座るんが好きやから、

　　そやなぁ～！確かに猫やと　よう言われますねん！
て、答えといたら、

　　鬼！

て、言われたわ。
身震いしたわ～

ねぇ、そんなお家(うち)やけど、
今夜もこれから貴方様は帰りはんの？

もう、０時まわったし豆撒きしても、鬼、追い出されへんよ。

そう心の中で呟いた。

なによぉ・・・
わたしの顔も今夜は怖いの？
何か感じたんやろか？
そんなコトは貴方様には告げてないけど・・・。

そやかて・・・
好きな人、帰したないから、しゃ～ないわ。

こんな話わたしの胸に、しもとくわ・・・。
わざわざ言うコトあらへんもん！

そや！
わたしまで、鬼にならんように
また
明日もお越しやす。

すねたアヒル

今、顔がアヒルになってます。

君から届いた絵文字入のメール。
残念ながら、僕の携帯にはその絵文字はヒヨコ！

構ってもらえなくてすねたから（笑）

いつもながらの（笑）のマーク。

わかりやすくて！
クールな俺もついニヤケちまうぜぃ〜！

な〜んて思われてたらどうしよう！！！

そう思いながら絵文字だらけのメールは今宵も
大好きな人の元へ一直線！

あぁ〜あ！
いつになったら私のハートは届くのかしら

アホ言うとらんと、今日は大人しく眠っちゃお〜

おやすみなさい。
また明日〜

空港

空港で、飛び立つ飛行機見送った

どうか楽しい旅になりますよ～に！
心だけ、連れてけ～！泥棒！！！
あ！既に持ってかれてるかぁ～

心の中で独り言。

帰り路
思い出すのは別の男(ひと)

飛行機！見に行こう！

急にハンドル切り直し空港までGO！

３機目の飛行機が飛び立った後
ふと、言われた言葉、今でもたまに想い出す。

このまま、二人で　あてのない旅にでようか？

黙ったまま・・・
いつのまいか繋いだ手、強く握り返したね。

あのまま逃避行してたら　どうなってたのかな？
今よりモット笑えてたかな？

何で今、そんな昔のコト思い出したんだろう・・・。

心、置いてくからだ！
帰ってきたら、とっちめてやろ～っと！

少し寂しくなって涙ぐんだ目を擦って
わたしは独り家路へと急いだ。

睫毛

KISSを交わすたび

わたしはあなたの　わたしより３mm長い睫毛に軽く嫉妬する。

そして今宵もそんなあなたの顔を これ以上ないくらい近くに感じながら
あなたのくちづけに酔いしれ

わたしもやがて眼を閉じる・・・。

開かれた唇

あどけない顔で眠る君の頬を
包むように優しくなぞってみる

起きている時には
とてもじゃないけど言えそうにない
甘い愛の言葉を　そっと囁いてみた。

今、微かに君の唇が優しく形を変えたね

起きてるのか？
いや違うな…

くちづけを求めるかのように
少し開かれた君の唇から溢れる熱い吐息

火照った身体と同じように温かい唇にくちづける。

無意識に宙を舞う君の指先に指を絡め
君を抱き寄せた

僕はたまらなくこみ上げてくる想いを
どうやら抑えきれなくなったようだ

今夜も君を　眠りから呼び覚ましてしまいそうだな

スプリングのきしむ音と同時に
君の熱い視線を感じながら・・・

レインコート

ずっと長年探してた　レインコートが見つかったのですね。

旅に出る朝、「見つかるといいね！」って見送った日。

さぞかし身体にフィットして、雨の日も楽しいんでしょうね。これからは・・・。

いつか、あなたのレインコートが擦り切れて
新しく買い替える日がくる迄、
わたしは美しい想い出と一緒にココに留まります。

その時はどうか以前とかわらぬ優しさで
わたしを包み込んで下さい。

雨に打たれても、色あせない熱い想いを
変わることなく大切に　ひとりで　あたためておきます。

「リュウノヒゲの実」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

長く伸びた芝のような濃緑の葉の中に
瑠璃色の実が埋もれている リュウノヒゲの実には
ぼくたちの顔が映っている

大空までもが小さな実の中に収まっている リュウノヒゲの中には
瑠璃色の小世界が在った

鳥野　隆史

その瑠璃色のなんと美しく強いコトよ。
わたしは　あなたに内緒で
そのリュウノヒゲの実を　ひとつポケットに入れた。

いつでもあなたの優しい強さを感じていられるように。
小さな小さな実を大切に持ちかえった

弥馬都__YAMATO

今日の午後

「こんな曲だよ！どう？」て、聞かれたから

「うん。好き！大好き！」って速攻かえしたけど、

その「大好き！」は誰に向けて言った好きかってわかってんのかなぁ～

どうか迷わずたどりつけますよ～に♪ってふと！考えてたら４時だった。

跳ねる。

許さない！そんなコト。

消せるわけがないのは　あなたが一番知っているはずよ。

ほら！
メガネをかけなきゃ見えない肉体は心より正直ね。

指先でとらえたあなたは、わたしの手の中で跳ねる。

もうじき息絶えるかのように・・・。

美しきモノたちへ

昨日、僕が捕まえたトカゲ
小さなケースに閉じ込めて
眺めてたんだ
キラキラ光るシッポと身体
　　ああ、なんて綺麗なんだろう！
って、

なのに今朝は動かない
ただの醜い生き物に
成り下がってしまった

コツン・コツン
とケースを指でノックした
　　何だ！死んじゃ～いない。
シュルン！
と、
動いた

美しくも醜くいモノ
君はケースの中ではトテモ醜いな。

太陽の下走り抜ける瞬間の
キラキラ光る身体が
今じゃ
ただの薄気味悪い色にさえ見えてきた

君も同じかな・・・
僕といるから
時々そんな曇った顔をするのかい？

ここから飛び立って
自由になりたいのかい？

このごろ笑わないな・・・

僕が縛りつけてるのかい？
君の心も身体も

最初にそれを望んだのは
君の方だったのに・・・

いっそのこと
僕は君が壊れるまで
傍に置いて眺めていたくなったよ。

美しきモノ。
それをこの手で壊してみたいから。

言葉で、
視線で、
そして指先で徐々に徐々に・・・

考えただけで
ゾクッ！
とするな。

カタチのいい唇が苦痛に歪み
少しその美が崩れる瞬間が
僕は好きだから。

それまで君を閉じ込めておこう

あぁ・・・。
でも、僕の方が先に壊れてしまいそうだ

「美し過ぎる　ある男」 ～櫻霞　奏 ＆弥馬都__YAMATO

もし死んだら、
次はにっこり笑って嘘付けるそんな男に生まれ変わりたい

櫻霞　奏

そう言いいながら　あなたは今の自分を誰よりも愛している。
そう、わたしのコトより深く冷たく・・・

弥馬都__YAMATO

しゃぼん玉

しゃぼん玉のように風に乗って

君の元に僕の気持ちがとどけばいいのに・・・。

冬の風は何て冷たく 胸を抉(えぐ)るようなんだろう

なぁ、あたためてくれないかなぁ。

一度でいいからお前に抱かれたいよ。

男が甘えちゃいけないかい？

港。

あなたの言う通りなのよ、キット！

夢は叶ってしまっては、輝きを失くすわ！

けどキラキラを望み皆、必死でもがいているの・・・。

荒波に揺られた一層の小舟のような
わたしの胸の内を　あなたはまだ理解してないのね？

一体わたしはこの先どこを目指せばいいというの。

もうあなたの港にはなれそうにもないから・・・

２０１２/０３/１６

「卒業」～櫻霞　奏　＆　弥馬都__YAMATO

変わったねって君から言われた。変わってないよって僕は答えた。
でもね本当は変わったんだよ。
君からやっと卒業できた。
過去の気持ちとさよならできた。
変わったねって君から言われた。そうかなって僕は答えた。
本当はとっても悲しかった。
でも進める事ができたよ。

櫻霞　奏

ムキになるとこ変わってない。
卒業証書！渡した覚えのないまま　あなたは私から卒業したのに・・・
本格的な春がくる前に、私が卒業しなきゃいけないのかもね、
青く若い、
そして暖かさに包まれていた　大人ぶったあなたとの今年の冬を・・・。

弥馬都__YAMATO

２０１２/０３/１９

空飛ぶペンギン

上ばかり見上げて空飛んでた。

星と月と戯れて少し疲れて下を見た。

そしたらさぁ～
青い青い空が下にもあったんだ！

迷わず急降下！
　　ザブーンッ！？て。

弾丸みたいに跳べたんだ！

下にあった空は『海。』って名前らしい・・・。

２０
１２/０３/２１

好きの順位

好きに順位があるとしたら、嬉しくて、哀しい話だけど、

存在が好き！て感じるコトがある。

イヤだなぁ～こういう所。

大好き！さり気ない優しさ。とか気持ちは１分１秒変わってくけど

わたしは、その人の存在が好き。

近くて遠い人だけど、

今朝もその人が、そこにいてくれるコトにありがとう

そして、

ありがとうと言ってくれた　あなたがやっぱり今日も大好き！

２０１２/０３/２３

ベイビーブルー
ベイビーブルー

あなたが　わたしを　そう呼ぶの

ベイビーブルー
ベイビーブルー

いつになったら　わたしのハート

ベイビーブルー
ベイビーブルー

どれだけまてば　ピンクになるの？

ベイビーブルー
ベイビーブルー

このままだと凍りついてしまいそう

ベイビーブルー
ベイビーブルー

あなたが思うほど
わたし・・・

子供じゃないかもしれなくてよ。

そのうち逆に
あなたのハート
凍りつく日がくるかもね・・・

12/03/26

「今日も風は吹く」～鳥野　隆史　＆　弥馬都__YAMATO

僕には君にあげられるものがない
野に咲く花をあげようか
それとも歌を贈ろうか
それとも抱きしめてあげようか

今日も風は吹いている

鳥野　隆史

風が吹いていても私は平気
あなたがいつもそこにいてくれるから
いつも想ってくれるから
あなたがいればなにも欲しくない
ただ、
あなたが優しくなれる強さを抱きしめているように
私を包み込んでいてくれたらそれでいい

いえ、それがいいのです。

弥馬都__YAMATO

０１２/０３/２８

エイプリルフール

1年前ウソついた。

「セカイデイチバンキミガスキ」

あ！エイプリルフールだよ！
あれ？
今時計みたら１分過ぎてた(笑)って言ったコト。

そう、どれが嘘で何が本当かわかんないようにして・・・。

ただ、ただね。
今日は　あなたに「大好き！」って言えない自分が
携帯握り締めたまっま、日付が変わるのずっと待ってる。

多分寝ちゃうな・・・

このまま、眠ろう。

明日いつものように「おはよう！」って、元気に言えるように。

あぁ、でも
「今日も大好きだよ。」て、言っちゃいそうだ・・・

あ！これ言うと私は大嘘つきになっちゃうのかな？

まだ時計は２０１２/０４/０１のpm２３：５９だから

私はうわの空で　別れを想った

切ないよりも刹那の恋をくれたあなた

さようなら。

好きでした。

いえ・・・
好きだとおもいたかったのです。

あなたへのお別れは何も言わないでおきましょう・・・

気が付けば傍にいたわたは、

浮ついた心のような雲を眺めては

そしてその恋にふさわしく

ふと、別れを想うのです。

そんな今日の午後でした・・・

＊【うわの空】・・・空(くう)の心の意にて使用

２０１２/０４/０２

イラスト＆タイトル：ナスカ　　詩：弥馬都__YAMATO

恋の入学式

先輩の制服のボタン！

全て無くなってたから　妙に悲しかった卒業式の帰り道。

チョットうつむき涙した。

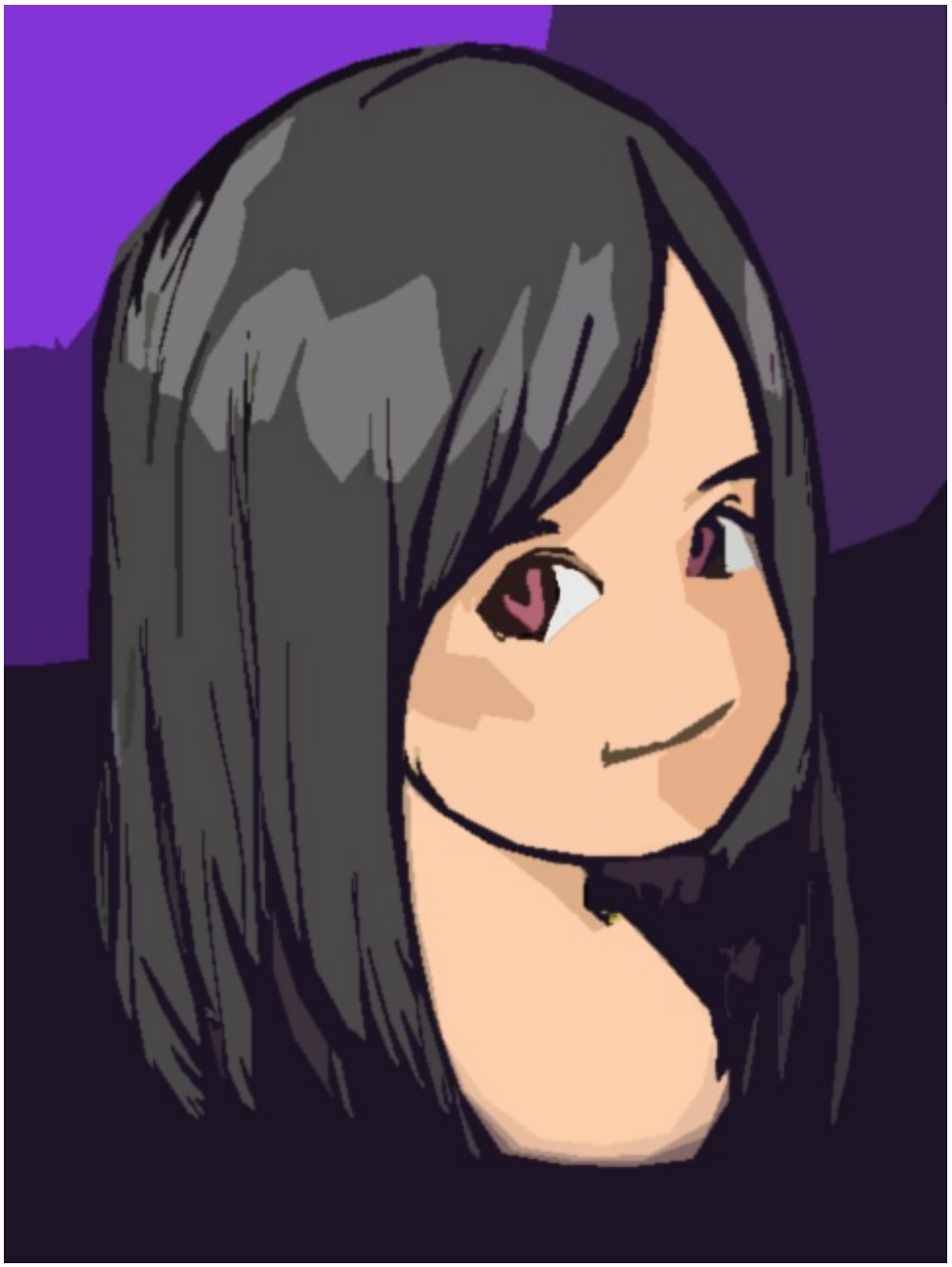
　　コツン！
て後ろから小石投げられ振り向くと　はにかんだような先輩の笑顔。

「拾(ひろ)てみ！チャント先に千切って とっといたんや！」

先輩が卒業した日はわたしの恋の入学式。

わたしの顔～スマイル！

特別な朝に、
特別に感じてるあなたから贈られた言葉は　とても平凡なモノだったけれど宝物。
ありがとう。そこにいてくれて。
ありがとう。ってあなたに今日も言えるコトに「ありがとう。」



わたしのスマイル！

イラスト：ナスカ　　詩：弥馬都__YAMATO　　２０１２/０４/１０

あなたの背中

先に眠ったあなたの横に
猫のようにそっと身体を滑らせて
いつもは　あなたがするように
優しく髪をすいてみた

今日は疲れているのかなぁ～

心の中でひとりごと。

ずっと追いかけてきた背中が
ほら！こんなに近くにあるんだね。

爪を立てないようになぞる・・・

冷たい脚を絡ませて
このまま今日は眠りの中へ

おやすみなさい。

わたしも　あなたの夢の中に
少し遅れて入っていくね

おやすみなさい。

２０

１２/０４/１３

君には「ありがとう。」は似合わないよ。

傷ついたふりをして、
悲劇のヒーロ気取ってる君はみんなの英雄。

真実なんて誰も求めてないから僕は気にしない！

だから僕は何も語らないのに

君はそうまでして皆の同情を乞いたいのだね・・

僕の瞳に狂いがあったのかな？
いいさ！僕の真実を月だけが知っていれば僕はぶれない。

ただ、
君に「ありがとう。」が好きだとは言われたくないけどね！

そんな君に僕は今日もありがとう。を伝えるのは変だと思うのかい？

おかしな話だね。全くさ・・・

ただ、たださぁ～

僕はお返しが欲しくて語りかけてる訳じゃないんだよ。

僕は僕自身が君に感謝したから「ありがとう。」を伝えただけさ。

君みたいに見た目は気にしていないから。

２０１２/０４/１６

明日は笑おう！

綺麗な顔のお人形
遊んでいたら顔に汚れがついちゃった。

い～らない！

可愛くて綺麗だから好きだったの。

キュートな顔のクマの縫いぐるみ
大好きだから眠るときもずっと一緒。

抱っこしすぎて、腕が少し綻びた。

手術しま～す！

針と糸でチクチクチク。

暫く一緒にいたけれど
手術の縫い目は醜いままだね。

今日はそんなコトばかり考えてた。

もうすぐ日付が変わるね・・・

明日は笑おう！

２０１２/０４/１９

君のSOS

　　ねぇねぇ～
　　ちょっとこっちに来て！
　　早く早くぅ～
　　ＳＯＳ！なの！

バスルームから慌てて飛び出した！

　　こっちこっち！
　　ここに座って！

何事かと思うじゃないか
君はＳＯＳが多すぎる！

　　じっとしててね～
　　動いちゃ嫌～よ！

それと同時に膝の上

　　あっ！やっぱり！この方が疲れないわ～
　　椅子って何だか、かたいから～

おいおい…

人の膝、人間椅子にしやがってさ！

もう勘弁してくれよ！

長く座ると椅子だと疲れるってか？

おいおい！

……

やべー！

今度は

俺がＳＯＳだ！

２０１２/０４/２３

腹の中に蠢(うごめ)く魔物。

望みなく腹に居座る魔物。
吐き気がする・・・

蠢いているわけではないのに
息をしているわけでもないのに

吐き気が収まらない。

女を知らしめる日でもない。
なのに吐き気が止まらない。

どす黒くドロドロとしたモノが
何か気持ち悪く居座っている。

一瞬！
その吐き気に任せて吐き出してしまいた衝動に駆られたが
何かが私にブレーキをかけた。

　　話したって何も変わらないさ。
　　黙ってた方が身のためってってもんだよ！

どこからか、そんな声が聞こえた。

「そうね・・・。」

もため息のような小さな呟きをして
私は二杯目のグラスを一息に飲み干し
いつものように艶めいた眼であなたを見つめかえした

なぜか南へ向かう６時前。

鋭い刃物でザックリと切れた傷口。
縫い合わせようにも抉(えぐ)られすぎているらしい・・・

心が抉られる時には、
いつもあなたの穏やかさが私の心を
　　ムギュー！
て、包み込む。

外科で貼って貰った特使な絆創膏より、
私の心を傷から守ってくれるあなたに今日も感謝しながら、
紅(あか)い紅(べに)さす夕方。

もうすぐ6時。

何やってんだか・・・。わたし

２０１２/０５/０１

行ってきます。

残月～ただ、月を眺めていたの

夕べから
ただ、ぼんやりと美しい月を眺めているの。

今朝も残月が、
とても綺麗だわ。

でも、
月は何も言わない・・・

わたしは、
何も言わない。

ただ、そんなふうに始まった新しい今日という日。

何事もなかったように進んでく。

ただ、それだけのコト。

あなたが今日も笑っていますように。

　　君がチャント笑えていますように

繰り返す日々は美しく、
そして
とても・・・

２０１２/０５/０４

の朝に

「小さな笹舟」～鳥野　隆史＆弥馬都__YAMATO

小さな子供 こしらえた小さな笹舟
川の上小さな笹舟
流されながらときには沈んで
ときには浮かんで
小さな笹舟
川の上海を目指して 旅をする

鳥野　隆史

浮かんだ笹舟 川の上
川の流れに背いての
小さな旅は終わりを告げて
やがて大きな海原に漕ぎだしてゆくのでしょうか?

旅の終わりを告げる時
目指した路(みち)からそれたとて、あなたがいれば恐くない

弥馬都__YAMATO

「浄化。」突然の雷雨に見舞われて～12012/05/29

突然の雷雨のシャワーを浴びたから

哀しいコトも

嬉しかったあなたの真夜中の一言も

全て大地に還っていった。

そしてまた、
新しいわたしが生まれたよ！

ただいま

歪んだ太陽

月は明るく笑う太陽だけが好き。

黒点ができた黒く歪んだ太陽には
もう・・・
興味はない！

月の穏やかな優しい光が痛いのに
それさえ失くしたら
もう・・・

わたしは笑えない

「白粉の匂い」～2012/05/30

白粉の匂い。

衣擦れの音。

赤い紅。

彩られた似つかわしくない指先。

背中が、
チクッ！
とした。

重い足取り。

もぎ取られた翼の後が彩られた口紅の赤から
どす黒い彩りへと変わらぬように

今夜は作り笑いが上手くできますように。

それでは行って参ります・・・

朧気な月～２０１２/０６/０３の同じ月を眺めて

　　月がキレイ！
と、君は無邪気に笑う。

見上げた空はどんよりと
今宵の月は朧気だ・・・

そういや夕べも同じように感じたな。

朝、起きたら
俺の身体はドロドロに溶けて跡形もないって感覚。

起きたら・・・
って、
何で身体が存在してんのに、そんな感覚を覚えたんだろうな

もう0時をまわってやがる！

今夜も同じ夢を見そうだ・・・

いろんな想い

友達の
お祖母様が召されたと知った・・・

お婆ちゃんの思い出？
あまり私には無いけど
ふと、高野豆腐急に食べたくなった。

キッチンに立ち
ランチタイム終えて
夕方、出勤前の遅いお昼ご飯。

豆腐のように真っ白じゃない堅い塊！
調味液につけるとしんなり優しく戻る。

大さじ２とかの料理は
生まれてからこの方した記憶がない私。
鰹節、昆布でとっただしに塩、甘さを添える砂糖。そして
醤油さしから鍋に～

あ！
いつもより入れすぎた！！！

黒でも白でもない高野豆腐がいつもより黒く染まる。

鍋でグツグツ音を立て
懐かしい匂いと共に煮えている。

いつもより黒い色。
いつもと違う心のようだ・・・

考え過ぎかしら？
時計は否応なしに時を刻んでゆく・・・
大きな四角い形のまま煮えた高野豆腐。

ひとりだからいいかぁ～って、
　　ガブッ！
って一口噛んだ。

慌ててお腹に入れて支度しなきゃ！

歯並びと同じような綺麗な歯型が丸～くついたのを確認して、
じゅわぁ～っと、口の中にしみ出た味を
どこか懐かしく感じながら
私は少し
　　ほっ！
っとした気持ちになった。

２０１２/０６/０８

蜘蛛の独り言～２０１２/０６/１１

君を初めて眼にしたとき、美しく澄んだ瞳だと思った。
青空の下ピーン！と
羽を思い切り真っ直ぐに伸ばして飛んでいる姿に
憧れに似た想いさえ芽生えた。

君は季節外れのトンボ。ある日気がついた。
澄んだ青空うつしてたその目は既に色めがね。
写ってるのは澄んだ青空でも、美しい青空でもなんかじゃなかったんだ！！！
君のメガネは色めがね。
その美しい眼(まなこ)に映っているのは虹だと錯覚してたんだ。
そういうの色めがねって言うらしいな・・・

人間界では、群れるものは孤独に弱いね。
虫かごに入れるとスグ弱くなるくせに！群れなきゃなにもできないんだね。
青空の下自由に飛び回ってるなんて、いばってんじゃね～よ！
その瞳の奥にはどす黒いドロドロしたもの隠しながら今日も君は英雄気取り！
あぁ・・・みてられないねぇ、
美しい蝶々を手懐(てなづ)けたつもりの色めがねかけたトンボさん！

ねぇ、知ってるかい？
君は小さな箱の中でしか英雄を気取れない、弱い弱い生き物なんだ。

今日も馬鹿な蝶が一羽、君の傍に侍(はべ)ってら。

俺の元に飛んで来いよ！
生まれたての汚れをしらない、そこの蝶々のお嬢さん！
俺ならさ、
いたぶる前に美しいまま、ひとおもいに食べてあげるから・・・。

せめて心が傷つくまえにさ

天からの祝福の夜。

内ももに生暖かい血液が流れた夜
食卓に紅いお赤飯と鯛が並んだ。

何時もなら
私が眠ったあとに帰ってくる父の姿がそこにあった・・・

嬉しそうに笑いながら
　　おめでとう！

その日から父と顔を合わすのが嫌になり
できるだけ視線を外していた。

今日は父の日だね！パパ。

娘から大人になった私を
あの日のままの笑顔で「おめでとう！」
って優しく、誇らしげに言ってくれますか？

バージンロード。
一緒に歩いて欲しかったな！

あの日のように今宵は
白いシーツが
おめでたい紅に染まります・・・・

２０１２/０６/１７　父の日に記

台風～２０１２/０６/１９

ほら！
台風が近づいてきたから今日は荒れ模様の予感

でも、
キラキラハートの１日を過ごしてね！

て、朝一に交わした会話。

だんだんお空が暗くなって

雨も強く降り出した。

優しく儚げな彼女は
大好きな人とお揃いの笑顔でHAPPYに過ごせたのかしら？

わたしは　どうかな？
踏ん張ってないと飛ばされそうな毎日に
いっつも傘、さしかけてもらってばかり。

たまにはあなたが安心して笑えるように
もっとチャントしないとね。

そんなコト考えながらボンヤリ外を眺めてた夕方

問い～真夜中に浄玻璃の鏡の前に立つ女(わたし)。

ビックリするじゃない！
何故そんなコトを聞くの？
驚き過ぎたから返事するのを戸惑ってたら
時がどんどん進んでいったわ・・・

今、濡れた髪のまま鏡の前に立ってるの。
そして、問われた意味を考えてた。
同じ質問を聞き返して欲しかったの？
それとも・・・

雫がポタポタ白い肌に落ちて身体をつたう・・・

正面を見据えた見知らぬわたしに似た誰かが
ガラス玉のような眼(まなこ)で　わたしを見つめ返している。

この鏡
そういえば名前がついていたような気がするわ。

そうそう、思い出した！
浄玻璃の鏡。
確かそんな名前。

笑った唇が少し歪んでみえた

２０１２/０６/２３

イヤ！

イヤ！
それだけじゃ、イヤ・・・

心が少し折れた日は
ついワガママを言いいそうになる

辛いコトが沢山あって、
やっと、
嬉しいコトが続いて、
そういう時はチクッ！て心を突き刺すような人がいて・・・

ちょっと疲れてたみたい。

イヤ！
それだけじゃ、イヤ・・・

言わないけど、
言えないけど・・・。

２０１２/０６/２５

続。僕の薔薇～２０１２/０６/２９

あなたに手折られるコトだけを望んでいたのに

ただ愛でていただけだから、

　　ほら！ごらんなさいな！！！

美しく咲き誇った頃には

害虫がついたじゃない！

このまま蝕まれてゆくのもしゃくだから

仕方ないわねぇ

悪い虫と

共存していくしかないわ。

そう言って

ますます君は妖しく色づいた。

僕は黙って、そんな薔薇(きみ)を

ただ眺めていたんだ・・・

２０１２年ジャンル別人気作品　文芸部門大賞をありがとう（＾◇＾）

パブーで詩を書き始めて、まだ1年を迎える前に

２０１２年度の　ジャンル別人気作品　文芸部門大賞をいただきました（＾◇＾）

いつも私の描く不思議な世界を覗いていただいている 皆さんのお陰だと思っています。

本当にありがとうございました（＾◇＾）

これからも弥馬都__YAMATOとしての顔、

BLANCOの半分の私。として

いろんな世界を自分の心の中や、読んで下さっている皆様と一緒に創り上げれたら嬉しいです。

２０１２/０７/０７　　七夕の日に～　　弥馬都__YAMATO

この本の中に載せていただきました。

↓

パブー

電子書籍コレクション 2012

パブーコンテスト
大賞受賞作品紹介

新たな才能が
発掘されました

いますぐ読める！
スタッフおすすめ作品

「スティーブズ」
「へんしん わごむくん」
「それっ！へんしんだ！」
「だから、人生っておもしろい」

2周年記念！ パブー大賞発表

今年一番売れたのはどの作品？

あの人もパブーを
つかってます！

It's a bummer

そうやって言葉をいくつ紡いでも

あなたにはキット理解できないわね。

あなたも他の輩と同じなんだわ！結局。

表面を覆い隠す薄い皮膚一枚の感覚でしか私を観ていないのよ。

覗いてみなさいよチャント！

火花～２０１２/０７/１５

情熱は一瞬の火花。

発火したところでその炎は届かない。

私は雲の隙間からあなたに向かってそう叫んだ！

そして・・・に続くコトバ～２０１２/０７/１６

とても嬉しい今日という日に
何か洒落たコトバが言えればいいんだけど
考えても浮かばない。

でも気がついたの
いつも支えてもらってばかりだけど、
豊かな心と穏やかな優しさを持っている
素敵な貴方には、
ありがとうを贈ります。

ほんとう言うとね、
毎日言ってるから何か特別な言葉を探したの
でもね、
これしか思い浮かばなかった。

何時もありがとう。これからもヨロシクね

そして・・・

2012/07/16 とても大切で嬉しい日に

まるい月のせいにしよう～２０１２/０８/０２

さみしい・・・
そう呟くと届くけど
意味が違う。

哀しい？
悲しい？

アレでもない
コレでもないコトバ達が舞う。

コトバにできない。
どうしてだろう・・・

辛い。

そうか・・・

一番ピッタリなような気がした

でも、少し違ってる。

幸せじゃない？

笑ってるのに・・・

不幸なの？

涙が流れるから？

でも、
嬉しくても涙、でるよね！

考えても考えても。

何度も何度も。

タイミングを逃す・・・

わざとなのか？

時の悪戯なのか？

考えるのはよそう。

今日は・・・

月を抱いて眠ろう。

私が大好きな月を贈ってくれたんだから

キットわたしは今は幸せ。

夢ゆめユメ・・・。～２０１２/０８/０６早朝

自分の叫び声で目が覚めて
現実に戻れた。

怖かった！

夢の中で
　　これが夢ならいいのに・・・。

と、切に願っていた。

引き戻された朝。

今日も太陽が登る笑顔の朝。

そして素敵で溢れた日常という名の今日が始まる。

そしてまた繰り返される感情。

あぁ・・・夢ならいいのに

本当に明け方にみた怖い夢ならいいのに
これが,
わたしにとってのリアル(現実)！

わたしは眠りにつくまでの夜が嫌い

蝉～２０１２/０８/０９

地上にでたら一週間で命を落とす蝉。
暗い暗い闇の中で長い人生を息づき

暗闇の中の世界は楽しいですか？
日のとどかない世界は快適かしら？

太陽をこの眼で見たら、限られた命の合図。

多くの人はそれを不幸というけど、
本当にそうなのかしら？

闇の中にも幸せはあるんじゃないのかしら・・・。

ふと、そう考える。

鎧を破り捨て背中が割れて羽ばたく姿。
まるで、透明の白い天使のようね。

美しいわ！とても美しい。怖いくらいに・・・。

あぁ・・・
なんて儚さとは美しい。

日の当たる場所で生きていくのは
とても難しいコトだわね・・・

だから女は化粧という鎧を今日もつける

細い月と虹。～２０１２/０８/２０

今日の月は細くて美しかったね。

手をのばすと　すぐに折れてしまいそうだった。

昨日の夕方は港で虹を眺めていたのに・・・

そういえば
虹は始まりの根本しか肉眼では確認できなかったんだわ！

とても太くて力強い虹だったのに

弧を描くコトはなかった。

ぼんやり眺めていたんだけど
やがて雲に覆われ日がくれてしまったの。

今夜の月は本当に美しいわね。

でもキット掴もうとすると

風に溶け込むようにペキッ！っと音をたてて
ホロホロと崩れてしまうに違いないわ！

人の心の方が儚げだと思うけど
本当は強いのかもしれないわね

みえない傷が今夜もひとつ刻まれただけで
まだ、
折れてはいないもの・・・

抉る～２０１２/０８/２８　am3:45

心臓に
抉るように突き去ったコトバが痛いよ！

いっそのこと、
砕かれた方が楽かもしれないね。

　　違うよ！

て、
いつものように笑って答えれたらよかったのにね

今夜の月は満月にはまだ少し先だから

まだ、
まんまるじゃないけど、

どうしてかなぁ・・・

三日月の先の尖ったナイフのように

突き刺さり！

わたしの心臓を抉った。

今宵の月は飛び切りキレイですね。

穏やかなあなたが

そこにいてくれたら

わたしに　とっては、

毎日がブルームーン。

今宵の月は

飛び切りキレイですね。

ずっと前から

そして今も、この先も

「今日も月がキレイですね。」

と、

あなたに毎日伝え続けたいと

そう望んでしまいそうな

今日の　わたし。

０１２/０８/３１ブルームーンの日に

＊ひと月に二度満月が訪れることを「ブルームーン」と呼ぶようです。
　珍しいことから、見ると幸せになれるという話も。

つぶつぶアイスのおまじない。～２０１２/０９/１６

虹色のまーるいカタチの小さな つぶつぶアイス！

お口にポン！って放り込めば、

ほら！

いろんな味の運動会。

甘い味。

酸っぱい味。

ん？な味。

苦い味はないけれど

複雑な味がお口一杯にフワー！って広がるの！

少し傷ついていた気持ちが、
とてもとても大きな優しさに大切に大切に癒されて

今日、また新しい色がついたよ！

悲しかったり、怖かった思いをシュワーーー！って溶かしちゃうように

ブルーのサイダーフレーバーが爽やかだね。

まるで、あなたみたい。

いっぱいありがとう。

たくさん支えてくれて　ありがとう。

そして、会ったことのないみんなにも感謝。

ありがとう。

もう、わたしは元気！

今宵は新月ですね。～２０１２/０９/１６

月の裏に隠れて、あなたの深い優しさに

目いっぱい癒されていたから私はもう平気。

いつも支えてくれてありがとう。

いつか私が強くなって、あなたを支えられる日がくるまで

今のままの穏やかなゆっくりした時間が流れてゆきますように。

私やっぱりあなたが好きよ！

新月の夜は、心まであらわにしてしまうようだわ。

半裸。～２０１２/０９/１７ **AM3:30**

怖くて。
泣きながら。
話して。
優しくて。
強くて。
穏やかな。
優しさに包まれて。
心が半裸になって。
しまったの。

そして。
わたし。
そろそろね。
ココに居ては。
いけないような。
気持ちになってね。

今。
とても。
揺れているの。

甘えすぎて。
どうしようもなくて。
どうするコトも。
できなくて。

苦しくて。
別の意味で。
辛くて。
泣いたの。

無理しなくていいよ。
そう言われると。
とても。

安心するの。

でもね。
怖いの。
別の意味で。
とても怖いの。

これ以上。
甘えると。
キットね。
心が。
裸になってしまうわ。

キット・・・。

殺された心。癒されたココロ。～２０１２０９１７ **AM3:58**

言葉で殺された心を

優しいコトバで包み込むようにして

眠ろう。

明日の朝、

おはよう。と、太陽のように笑える自分がいるコトを願って。

シャリッ！

暗い光の当たらぬ地の底からずっと見上げていたのね。
首が折れてしまえばよかったのに！

一頻り太陽を乞いながら鳴いたのね。
灼かれてしまえばよかったのに！

飛び立とうとしていた小鳥を羨み妬み、聲を奪い
鳴けなくしたのだから、さぞ満足でしょうに

遠くまで飛ばない蝉。
一本の幹に執着し、執拗に空を見上げる。
夏の終おわりと共に再び地に落ち
草に埋もれて干からびてしまえ！

えぇ、そうね。
小枝のようなわたしの脚では、無理だわ！

通りすがりの見知らぬ人の靴底で
踏まれてしまえばいい！

シャリッ！

という音と共にバラバラに崩れさればいい。

蟻に集られて穴の空いた身体が
粉々に飛び散るのを見下すように見おろしてあげる。

虹。

空を仰いで　黒い雨雲をぼんやり眺めていたの

パラパラと舞い落ちてくる雨が地面に吸い込まれてゆくように、
乾きかけた私の心をあなたのコトバが潤すの。

やがては雨も止む。

そのあとには美しい虹が現れて
絆創膏のように　傷ついた心臓をピッタリと覆い、
七色のワクワクハートに変えていってくれるのね。

開く百合。

ほら！そっと触れてみて。
優しくあなたの指先で。

ブクッ。っと膨らんだ蕾だった私が
薄桃色にほのかに色づき花開いたのよ。

真ん中の花瓣が外見の儚さと違って、かたいわよ
あなたへ向かう私の心のように強いから。

ほら、早く確かめてみて
その細く長い指で。

あなたはキット知らないのね
百合の花粉は一度ついたらとれないってコトを・・・

photo：絹子

弥馬都__YAMATO 他、作品

☆『月の裏で逢いましょう』
http://p.booklog.jp/book/31321　　処女作品です。

☆『青い炎』
http://p.booklog.jp/book/32076　　小説です。
『青い炎』鵜飼編は完結
。
不定期更新で続いていき
ます。

☆『箱の中』　　詩のような物語
２http://p.booklog.jp/book/38522　　不定期更新の小説です。

２人で綴る不思議な本です。僕の半分が私、弥馬都__YAMATO　です。

☆『Blanco』　　blancoとしての処女作
品です
http://p.booklog.jp/book/32108

☆『Blanco 2　私の半分　僕の半分』　　詩集です

http://p.booklog.jp/book/33457

☆『ブランコロンの冒険』　２人で書いてるファンタジー小説

http://p.booklog.jp/book/33025　不定期更新です

☆Blanco 3　A Cup Of World カップの中の世界

http://p.booklog.jp/book/38212　ほぼ毎日更新中の詩集です

月の裏で逢いましょう２～彗星の乾いた悲鳴～

http://p.booklog.jp/book/32248

著者：弥馬都__YAMATO
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/himitsunojikann/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/32248

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/32248

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.